



ccs connect (controller) through clear vsp statistics

- [ccs connect \(コントローラ\) \(3 ページ\)](#)
- [ccs connect \(インターフェイス\) \(5 ページ\)](#)
- [CCS エンキャップ FRF11 \(7 ページ\)](#)
- [cdr 形式 \(9 ページ\)](#)
- [ces-clock \(11 ページ\)](#)
- [cgma-agent \(12 ページ\)](#)
- [チャンネルグループ \(15 ページ\)](#)
- [チャンネル ID \(21 ページ\)](#)
- [暗号 \(音声クラス\) \(23 ページ\)](#)
- [暗号 \(音声クラス tls-cipher\) \(26 ページ\)](#)
- [clear backhaul-session-manager group stats \(28 ページ\)](#)
- [clear call application interface \(30 ページ\)](#)
- [clear call application stats \(32 ページ\)](#)
- [clear call fallback cache \(34 ページ\)](#)
- [clear call fallback stats \(36 ページ\)](#)
- [clear callmon \(37 ページ\)](#)
- [clear call threshold \(38 ページ\)](#)
- [clear call treatment stats \(40 ページ\)](#)
- [clear call voice \(42 ページ\)](#)
- [clear call-router routes \(44 ページ\)](#)
- [clear controller call-counters \(45 ページ\)](#)
- [clear controller t1 \(50 ページ\)](#)
- [clear csm-statistics modem \(60 ページ\)](#)
- [clear csm-statistics voice \(61 ページ\)](#)
- [clear h323 gatekeeper call \(62 ページ\)](#)
- [clear h323 gatekeeper endpoint \(64 ページ\)](#)
- [H323 ゲートキーパーの統計情報をクリアする \(66 ページ\)](#)
- [clear h323 gateway \(67 ページ\)](#)

- [clear http client statistics](#) (69 ページ)
- [clear interface cable-modem](#) (70 ページ)
- [メディアプロキシセッションの概要履歴をクリアする](#) (71 ページ)
- [clear mgcp src-stats](#) (72 ページ)
- [clear mgcp statistics](#) (73 ページ)
- [MRCP クライアント統計をクリアする](#) (74 ページ)
- [clear rlm group](#) (75 ページ)
- [rpms-proc カウンターをクリアする](#) (77 ページ)
- [rudpv0 統計をクリアする](#) (78 ページ)
- [rudpv1 統計をクリアする](#) (79 ページ)
- [clear sccp server statistics](#) (80 ページ)
- [clear sdsfarm counters](#) (81 ページ)
- [SGCP 統計をクリアする](#) (83 ページ)
- [SIP-UA 登録をクリアする](#) (84 ページ)
- [SIP-UA 統計をクリアする](#) (85 ページ)
- [clear sip-ua tcp connection](#) (86 ページ)
- [clear sip-ua tcp tls connection](#) (88 ページ)
- [clear sip-ua udp connection](#) (90 ページ)
- [clear ss7 sm-stats](#) (92 ページ)
- [clear statistics dial-peer voice](#) (93 ページ)
- [clear stcapp statistics](#) (95 ページ)
- [clear subscription](#) (96 ページ)
- [clear tgrep counters](#) (97 ページ)
- [clear tgrep neighbor](#) (98 ページ)
- [clear voice accounting method](#) (99 ページ)
- [clear voice dsp](#) (100 ページ)
- [clear voice phone-proxy all-sessions](#) (102 ページ)
- [clear voice statistics](#) (103 ページ)
- [clear voip fpi rtts](#) (105 ページ)
- [clear voip fpi stats](#) (106 ページ)
- [clear voip rtp port](#) (107 ページ)
- [clear voip stream-service connection](#) (109 ページ)
- [clear voip stream-service statistics](#) (111 ページ)
- [clear vsp statistics](#) (113 ページ)

ccs connect (コントローラ)

CCS フレーム転送をサポートするように設定されたインターフェイスで共通チャネルシグナリング (CCS) 接続を設定するには、コントローラコンフィギュレーションモードで **ccsconnect** コマンドを使用します。インターフェイス上の CCS 接続を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ccs connect {**serial** | **atm**} **number**[[**dlci**] | **PVC** **VPI/VCI**] **PVCname**[[**cid-number**]

CCS 接続なし {**serial** | **atm**} **number**[[**dlci**] | **pvc** **VPI/VCI**] **pvcname**[[**CID** 番号]

構文の説明

シリアル	フレームリレー用のシリアル CCS 接続を作成します。
atm	ATM CCS 接続を確立します。
dlci	(オプション) データリンク接続識別子 (DLCI) 番号を指定します。
pvc vpi/vci	(オプション) 相手先固定回線 (PVC) の仮想パス識別子 (VPI) または仮想チャネル識別子 (VCI) を指定します。範囲は 0 ～ 255 です。スラッシュは必須です。
pvc 名前	(オプション) 認識用の PVC に名前を付ける PVC 文字列を指定します。
CID 番号	(オプション) ccsencapfrf11 コマンドを実行した場合、 cid-number 引数を使用して、5 ～ 255 の任意のチャネル識別 (CID) 番号を指定できます。

コマンドデフォルト

CCS 接続は行われません。

コマンドモード

コントローラの設定 (config-controller)

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(2)T	このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。
12.0(7)XK	cidnumber 引数が追加され、 dlci キーワードと vcd オプションは削除されました。
12.1(2)T	CID 構文の追加と dlci キーワードおよび vcd オプションの削除が Cisco IOS リリース 12.1(2)T に統合されました。
12.1(2)XH	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 7200 シリーズ、および Cisco 7500 シリーズに実装されました。
12.1(3)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(3)T に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、CCS 接続を構成します。CCS 接続がフレームリレー経由の場合は、シリアルインターフェイスと DLCI を指定します。CCS 接続が ATM 経由の場合は、**atm**、スロット番号、および PVC を指定します。

ccsencapfrf11 コマンドを実行した場合、**ccs connect** コマンドの **cidnumber** オプションを使用して、5 ～ 255 の任意の CID を指定できます。**ccsencapfrf11** コマンドを発行しない場合は、シスコのカプセル化が使用され、254 以外の CID 値は無視されます。



(注) D チャネル インターフェイスでは、CDP とキープアライブはデフォルトで無効になっています。

例

デフォルトの CID 254 を使用して DLCI 100 でフレーム リレー CCS フレーム転送接続を設定するには、次のコマンドを入力します。

```
ccs connect serial 1 100
```

または :

```
ccs connect serial 1 100 10
```

ATMPVC 経由の CCS フレーム転送接続を設定するには、次のコマンドを入力します。

```
ccs connect atm 0 pvc 100/10
```

または :

```
ccs connect atm 0 pvc 10/100 21
```

または :

```
ccs connect atm 0 pvc mypvc 10 21
```

CID 110 を使用して DLCI 100 でフレーム リレー CCS フレーム転送接続を設定するには、次のコマンドを入力します。

```
ccs connect serial 1 100 110
```

関連コマンド

コマンド	説明
ccsencapfrf11	標準 Annex-C FRF.11 形式の指定を許可します。

ccs connect (インターフェイス)

CCS フレーム転送をサポートするように設定されたインターフェイスで共通チャネルシグナリング (CCS) 接続を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ccsconnect** コマンドを使用します。インターフェイス上の CCS 接続を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ccs connect {serial | atm}[dlci | pvc vpi/vci | pvc name][CID 番号]
 CCS 接続なし {serial | atm}[dlci | PVC VPI/VCI | PVC name][cid-number]

構文の説明

シリアル	フレームリレー用のシリアル CCS 接続を作成します。
atm	ATM CCS 接続を確立します。
dlci	(オプション) データリンク接続識別子 (DLCI) 番号。
pvcvpi/vci	(オプション) 固定仮想回線 (PVC) の仮想パス識別子または仮想チャネル識別子 (VCI)。範囲は 0 ～ 255 です。スラッシュは必須です。
pvcname	(オプション) 認識のために PVC に名前を付ける PVC 文字列。
cid-番号	(オプション) ccsencapfrf11 コマンドを実行した場合、 cid-number 引数を使用して、5 ～ 255 の任意のチャネル識別 (CID) 番号を指定できます。

コマンド デフォルト

CCS 接続は行われません。

コマンド モード

インターフェイス設定 (config-if)

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(2)T	このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。
12.0(7)XK	cid-number 引数が追加され、 dlci キーワードと vcd オプションが削除されました。
12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(2)T に統合されました。
12.2(2)T	このコマンドは、Cisco 7200 シリーズ ルータに実装され、Cisco IOS リリース 12.2(2)T に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、CCS 接続を構成します。CCS 接続がフレーム リレー経由の場合は、シリアルインターフェイスと DLCI を指定します。CCS 接続が ATM 経由の場合は、**atm**、インターフェイス番号 (0)、および PVC を指定します。

ccsencapfrf11 コマンドを実行した場合、**ccsconnect** コマンドの *cid-number* オプションを使用して 5 ～ 255 の任意の CID を指定できます。**ccsencapfrf11** コマンドを発行しない場合、Cisco のカプセル化が使用され、254 以外の CID 値は無視されます。



(注) D チャネル インターフェイスでは、Cisco Discovery Protocol とキープアライブはデフォルトで無効になっています。

例

デフォルトの CID 254 を使用して DLCI 100 でフレーム リレー CCS フレーム転送接続を設定するには、次のコマンドを入力します。

```
ccs connect serial 1 100
```

または

```
ccs connect serial 1 100 10
```

ATMPVC 経由の CCS フレーム転送接続を設定するには、次のコマンドを入力します。

```
ccs connect atm 0 pvc 100/10
```

または

```
ccs connect atm 0 pvc 10/100 21
```

または

```
ccs connect atm 0 pvc mypvc 10 21
```

CID 110 を使用して DLCI 100 でフレーム リレー CCS フレーム転送接続を設定するには、次のコマンドを入力します。

```
ccs connect serial 1 100 110
```

関連コマンド

コマンド	説明
ccsencapfrf11	標準 Annex-C FRF.11 形式の指定を許可します。

CCS エンキャプ FRF11

FRF.11 の共通チャネル シグナリング (CCS) パケット カプセル化形式を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ccsencapfrf11** コマンドを使用します。FRF11 の CCS カプセル化を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ccsencapfrf11
no ccsencapfrf11

構文の説明	このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。
コマンド デフォルト	デフォルトの形式は、チャネル ID (CID) 254 を使用する Cisco パケット形式です。
コマンド モード	インターフェイス設定 (config-if)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(7)XK	このコマンドは、Cisco MC3810 用に導入されました。
	12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(2)T に統合されました。
	12.1(2)XH	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 7200 シリーズ、および Cisco 7500 シリーズに実装されました。
	12.1(3)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(3)T に統合されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、標準 Annex-C 形式を指定できます。このコマンドを使用して、CCS パケットのパケット形式を定義します。このコマンドは、CCS パケットにのみ FRF.11 Annex-C (データ転送構文) 標準ヘッダーを配置します。

ccsencapfrf11 コマンドを実行すると、**ccsconnect** コマンドを使用して 254 以外の CID を指定できます。

例 次の例は、フレーム リレーのシリアルインターフェイスを設定する方法を示しています。

```
interface Serial1:15
  ccs encap frf11
  ccs connect Serial0 990 100
```

関連コマンド	コマンド	説明
	モード ccs フレーム転送	コントローラー上でフレームを転送するように設定します。

コマンド	説明
ccsconnect	CCS フレーム転送をサポートするように設定されたインターフェイスで、CCS 接続を設定します。

cdr 形式

ファイルアカウンティング用に生成されるコール詳細レコード(CDR)の形式を選択するには、ゲートウェイ アカウンティング設定モードで **cdr-format** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** の形式を使用します。

cdr 形式 {compact | detailed}

nocdr 形式

構文の説明

compact	音声属性のコンパクトなセットが CDR に生成されます。
詳細	音声属性の完全なセットが CDR に生成されます。 デフォルト値。

コマンド デフォルト

詳細 (CDR の完全バージョンが生成されます)。

コマンド モード

ゲートウェイの会計ファイル設定 (config-gw-accounting-file)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(15)XY	このコマンドが導入されました。
12.4(20)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(20)T に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、ファイルアカウンティングプロセスによって生成された CDR に、完全な音声属性セットが含まれているか、17個の音声属性のコンパクトなセットが含まれているかを決定します。

detailed キーワードで生成される音声属性の完全なセットのリストについては、『RADIUS VSA Voice 実装ガイド』の「Cisco Voice 製品でサポートされる VSA」セクションを参照してください。

compact キーワードで生成される属性の名前と順序は、CallLegType、ConnectionId、SetupTime、PeerAddress、PeerSubAddress、DisconnectCause、DisconnectText、ConnectTime、DisconnectTime、CallOrigin、ChargedUnits、InfoType、TransmitPackets、TransmitBytes、ReceivePackets、ReceiveBytes、feature_vsa です。

例

次の例では、CDR 形式がコンパクトに設定されています。

```
gw-accounting file
primary ftp server1/cdrtest1 username bob password temp
maximum buffer-size 60
maximum fileclose-timer 720
cdr-format compact
```

関連コマンド

コマンド	説明
acct-template	アカウントティング レコードに収集する音声ベンダー固有の属性のグループを選択します。
最大バッファサイズ	ファイルアカウントティングバッファの最大サイズを設定します。
最大ファイルクローズタイマー	記録を会計ファイルに保存してからファイルを閉じて新しいものを作成する前の最長時間を設定します。
プライマリ	ファイル会計用に生成された CDR を保存するプライマリの場所を設定します。

ces-clock

回線エミュレーションサービス（CES）インターフェイスのクロックを設定するには、コントローラ コンフィギュレーション モードで **ces-clock** コマンドを使用します。CES クロックを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ces-clock {**適応型** | **srts** | **同期**}
no ces-clock {**adaptive** | **srts** | **synchronous**}

構文の説明

adaptive	受信した ATM アダプテーション レイヤ 1 (AAL1) の出力クロックを先入先出法で調整します。非構造化モードで使用します。
srts	クロッキング モードを同期残差タイムスタンプに設定します。
同期	構造化モードのタイミング回復を同期に設定します。

コマンド デフォルト

デフォルト設定は、同期です。

コマンド モード

コントローラーの設定 (config-controller)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(2)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、OC-3/STM-1 ATM CES ネットワーク モジュールを備えた Cisco 3600 シリーズ ルータで使用されます。

例

次の例では、同期残差タイムスタンプの CES クロック モードを設定します。

```
ces-clock srts
```

関連コマンド

コマンド	説明
コントローラ	T1 または E1 コントローラを構成します。

cgma-agent

Cisco IOS ゲートウェイで Cisco Gateway Management Agent (CGMA) を有効にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **cgma-agent** コマンドを使用します。CGMA を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cgma エージェント[TCP ポート`number` | `time-period`秒]
nocgma エージェント

構文の説明

tcp -ポート番号	(オプション) サードパーティの管理システムとの通信に使用する CGMA の TCP ポート番号を指定します。範囲は 5000 ～ 65535 です。デフォルトは 5000 です。
time-period seconds	(オプション) 非アクティブ期間中に CGMA とサードパーティ管理システム間のリンクを維持するための最大時間 (秒単位) を指定します。タイムアウト値の2倍に達するか超過してもクライアントからメッセージが受信されない場合は、TCP 接続が閉じられます。さらに、CGMA では 60 秒のタイマーが維持されており、サードパーティの管理システムからハンドシェイク クエリメッセージが 60 秒間受信されない場合、接続が閉じられます。範囲は 45 ～ 300 です。デフォルトは 45 です。

コマンド デフォルト

デフォルトの数値 値は 5000 です。デフォルトの秒 値は 45 です。

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)XB	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 で導入されました。
12.2(2)XB1	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.2(2)XB1 リリースの Cisco AS5800 にのみ実装されました。
12.2(8)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合され、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco 7200 シリーズに実装されました。このリリースには、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5800 のサポートは含まれていません。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、Cisco IOS ゲートウェイで CGMA を有効にします。CGMA はサードパーティの管理システムと通信して、ゲートウェイ管理に関する次のようなリアルタイム情報を提供します。

- CGMA とサードパーティ管理システム間のハンドシェイク クエリ、ステータス クエリ、および応答メッセージ。

- TCP/IP 経由で拡張マークアップ言語 (XML) を使用して送信された通話詳細レコード (CDR) からの通話の開始と終了などの通話情報。
- T1 または E1 コントローラとアナログポートがアップしているかダウンしているかを示します。また、T1 または E1 コントローラの下にある「pri-group」または「ds0-group」が削除または追加されたときにも生成されます。

例

次の例は、CGMA が TCP ポート 5300 で有効になっており、リンクが非アクティブであるため CGMA が 300 秒後にタイムアウトし、サードパーティ管理システムとの接続を閉じることを示しています。

```
Router(config)# cgma-agent tcp-port5300 time-period 300
Router# show running-config
Building configuration...
Current configuration : 1797 bytes
!
version 12.2
service config
no service single-slot-reload-enable
service timestamps debug uptime
service timestamps log uptime
no service password-encryption
!
hostname gw1
!
.
.
.
resource-pool disable
!
ip subnet-zero
no ip domain-lookup
!
no ip dhcp-client network-discovery
isdn switch-type primary-ni
!
!
!
!
!
cgma-agent tcp-port 5300 time-period 300
fax interface-type modem
mta receive maximum-recipients 2
!
!
controller T1 0
framing esf
linecode b8zs
pri-group timeslots 1-24
!
!
interface Ethernet0
ip address 209.165.200.225 255.255.255.0
!
interface Serial0:23
no ip address
isdn switch-type primary-ni
isdn protocol-emulate network
```

```
isdn incoming-voice modem
isdn T310 10000
no cdp enable
!

voice-port 0:D
!
dial-peer voice 1213 voip
destination-pattern 12135550100
session target ipv4:209.165.200.229
!
dial-peer voice 1415 pots
destination-pattern 14155550100
direct-inward-dial
port 0:D
!
dial-peer voice 12136 voip
destination-pattern 12135550120
session target ipv4:209.165.200.229
!
dial-peer voice 14156 pots
incoming called-number .
direct-inward-dial
!
gateway
!
end
```

チャンネルグループ

T1 または E1 インターフェイスでシリアル WAN を設定するには、コントローラ コンフィギュレーション モードで **channel-group** コマンドを使用します。チャンネル グループをクリアするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

Cisco 2600 シリーズ

チャンネルグループチャンネルグループ番号タイムスロット範囲[速度 {56 | 64}][aimaim-slot-number]
noチャンネルグループチャンネルグループ番号

Cisco 2611 (Cisco シグナリングリンクターミナル [SLT])

チャンネルグループチャンネル番号
noチャンネルグループチャンネル番号

Cisco ASR 901 シリーズ、Cisco 2600XM シリーズ、Cisco 2691、Cisco 3631、Cisco 3660、Cisco 3725、および Cisco 3745

チャンネルグループチャンネルグループ番号 {タイムスロット範囲[速度 {56 | 64}]} | フレームなし}[aimaim-slot-number]
noチャンネルグループ[チャンネルグループ番号タイムスロット範囲]

Cisco AS5350 および Cisco AS5400 シリーズ

チャンネルグループチャンネルグループ番号
noチャンネルグループチャンネルグループ番号

Cisco MC3810

チャンネルグループチャンネル番号タイムスロット範囲[速度 {56 | 64}]
noチャンネルグループ[チャンネル番号タイムスロット範囲]

構文の説明

チャンネルグループ番号	Cisco 2600 シリーズ、Cisco 2600XM、Cisco 2691、Cisco 3631、Cisco 3660、Cisco 3725、および Cisco 3745 ルータ上のチャンネルグループ番号。T1 データラインが設定されている場合、チャンネルグループ番号は 0 ～ 23 の値にすることができます。E1 データラインが設定されている場合、チャンネルグループ番号は 0 ～ 30 の値にすることができます。 Cisco AS5350 および Cisco AS5400 では有効な値は 0 または 1 になります。
-------------	--

タイムスロット範囲	カンマで区切られた1つ以上のタイムスロット、またはダッシュで区切られたチャンネルグループに属するタイムスロットの範囲を指定します。最初の時間スロットの番号は1です。 • T1 コントローラの場合、タイムスロットの範囲は1～24です。 • E1 コントローラの場合、タイムスロットの範囲は1～31です。 時間スロットの範囲 (例: 1～29)、カンマで区切られた個々の時間スロット (例: 1、3、5)、またはこれら2つの組み合わせ (例: 1～14、15、17～31) を指定できます。さまざまなタイムスロット範囲のサンプルについては、「例」セクションを参照してください。
速度 {56 64}	(オプション) 基礎となる DS0 の速度をキロビット/秒単位で指定します。有効な値は 56 と 64 です。 Cisco 2600 シリーズ、Cisco 2600XM シリーズ、Cisco 2691、Cisco 3631、Cisco 3660、Cisco 3725、Cisco 3745、および Cisco MC3810 で T1 コントローラを設定する場合のデフォルトの回線速度は 56 kbps です。 Cisco 2600 シリーズ、Cisco 2600XM シリーズ、Cisco 2691、Cisco 3631、Cisco 3660、Cisco 3725、Cisco 3745、および Cisco MC3810 で E1 コントローラを設定する場合のデフォルトの回線速度は 64 kbps です。 回線速度はリアルタイム (VBR-RT) トラフィックシェーピングを制御し、最大バーストサイズ (MBS) は 255 セルです。
aimaim-slot-number	(オプション) Cisco 2600 シリーズ、Cisco 2600XM シリーズ、Cisco 2691、Cisco 3631、Cisco 3660、Cisco 3725、および Cisco 3745 上の AIM-ATM-VOICE-30 デジタルシグナリングプロセッサ (DSP) カードに、T1/E1 インターフェイスから HDLC トラフィックを送信します。
チャンネル番号	チャンネルの番号。Cisco SLT (Cisco 2611) では有効な値は 0 または 1 になります。
フレームなし	データ用に 32 個のタイムスロットすべてを使用することを指定します。Cisco ASR 901 シリーズ、Cisco 2600XM シリーズ、Cisco 2691、Cisco 3631、Cisco 3660、Cisco 3725、および Cisco 3745 では、32 個のタイムスロットのいずれもフレーミング信号には使用されません。このキーワードは E1 にのみ適用されます。

コマンド デフォルト

T1/E1 回線は、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 2600XM、Cisco 2691、Cisco 3631、Cisco 3660、Cisco 3725、および Cisco 3745 ルータ上で、デフォルトで、2 つの音声または WAN インターフェイスカード (VIC または WIC) スロットと 0/1/2 個の FastEthernet ポート DSCC4 を備えた Motorola MPC-860x プロセッサシリアル通信コントローラ (SCC) またはネットワーク モジュールに接続されます。

Cisco SLT (Cisco 2611) にはデフォルトの動作や値はありません。

ネットワーク アクセス サーバ (NAS) (Cisco AS5350 および Cisco AS5400 シリーズ ルータ) 上のシリアル インターフェイス オブジェクトのカプセル化は HDLC に設定されています。

Cisco 2600 シリーズ、Cisco 2600XM シリーズ、Cisco 2691、Cisco 3631、Cisco 3660、Cisco 3725、Cisco 3745、および Cisco MC3810 に T1 コントローラが設定されている場合、デフォルトの回線速度は 56 kbps です。

Cisco 2600 シリーズ、Cisco 2600XM シリーズ、Cisco 2691、Cisco 3631、Cisco 3660、Cisco 3725、Cisco 3745、および Cisco MC3810 に E1 コントローラが設定されている場合、デフォルトの回線速度は 64 kbps です。

コマンド モード

コントローラーの設定 (config-controller)

コマンド履歴

リリース	変更
11.3MA	このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。
12.0	このコマンドは、Cisco MC3810 の Cisco IOS リリース 12.0 に統合されました。
12.0(7)XE	このコマンドは、Catalyst 6000 ファミリ スイッチに実装されました。
12.1(1)E	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.1(1)E に統合されました。
12.1(1)T	このコマンドは、Cisco 2600 および Cisco 3600 シリーズ ルータ上の 1 ポートおよび 2 ポート T1/E1 マルチフレックス 音声または WAN インターフェイス カードのポートに 2 つのチャンネル グループを収容できるように変更されました。
12.1(3a)E3	Cisco MC3810 では、 <i>kbps</i> 引数の有効な値の数を変更されました。有効な値については、「使用上のガイドライン」セクションを参照してください。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に実装されました。
12.2(15)T	aim キーワードは、Cisco 2600 シリーズ (Cisco 2691 を含む)、Cisco 2600XM、Cisco 3660、Cisco 3725、および Cisco 3745 で使用するために追加されました。
12.3(1)	unframed キーワードが、Cisco 2600XM シリーズ、Cisco 2691、Cisco 3631、Cisco 3660、Cisco 3725、および Cisco 3745 で使用するために追加されました。
12.2SX	このコマンドは Cisco IOS Release 12.2SX トレインでサポートされています。このトレインの特定の 12.2SX リリースでのサポートは、機能セット、プラットフォーム、プラットフォーム ハードウェアによって異なります。
15.4(3)S	このコマンドは、Cisco ASR 901 シリーズ アグリゲーション サービス ルータに実装されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、HDLC トラフィックを T1/E1 インターフェイスから AIM-ATM-VOICE-30 DSP カードに送信します。システムの初期化中に、**aim** キーワードを指定した **channel-group** コマンドが解析されるか、設定中にコマンドが入力されると、Advanced

Integration Module (AIM) HDLC リソースを使用してチャンネルグループが作成されます。Cisco 2600 シリーズ、Cisco 2600XM シリーズ、Cisco 2691、Cisco 3631、Cisco 3660、Cisco 3725、および Cisco 3745 上の AIM-ATM-VOICE-30 DSP カードに T1/E1 インターフェイスからの HDLC トラフィックを送信するには、T1/E1 コントローラ ポートで **aim** キーワードを指定する必要があります。



- (注) Cisco AS5400 シリーズ NAS および Cisco MC3810 は、AIM-ATM-VOICE-30 モジュールを使用した T1/E1 インターフェイス上の統合音声およびデータ WAN ではサポートされません。

前の **channel-group** コマンドが **aim** キーワードを使用して設定されている場合、**aim** キーワードのない後続の **channel-group** コマンドは拒否されます。同様に、通常の **channel-group** コマンドの後に、**aim** キーワードが使用された別の **channel-group** コマンドが続く場合、Cisco 2600 および Cisco 2600XM では 2 番目のコマンドは拒否されます。

AIM HDLC リソースを使用するチャンネルグループは、**nochannel-group** コマンドが入力された場合にのみ削除されます。

デフォルトでは、NAS 上の **channel-group** コマンドは、シリアル インターフェイス オブジェクトのカプセル化を HDLC に設定します。そのシリアル インターフェイス オブジェクトに対して **encapsulationss7** コマンドを入力して、デフォルトを上書きする必要があります。一度デフォルトを上書きすると、そのオブジェクトのカプセル化を再度変更することはできません。SS7 カプセル化オプションは、統合シグナリング リンク ターミナル機能の新機能であり、**channel-group** コマンドによって作成されたインターフェイス シリアル オブジェクトに対してのみ使用できます。統合シグナリング リンク ターミナル機能により、Cisco AS5350 および Cisco AS5400 プラットフォームに SLT 機能が追加されました。

デジタル SS7 リンクは、関連する T1/E1 コントローラで **nochannel-groupchannel-group-number** コマンドを入力することによって削除できます。まず、**noshutdown** コマンドを使用してリンクを停止する必要があります。最初にチャンネル ID の関連付けを削除する必要はありません。

ルータまたはアクセス サーバが T1 または E1 フラクショナル データラインと通信する必要がある構成では、**channel-group** コマンドを使用します。チャンネルグループ番号は任意に割り当てることができますが、コントローラごとに一意である必要があります。タイムスロットの範囲は、チャンネルグループに割り当てられたタイムスロットと一致する必要があります。サービス プロバイダーは、チャンネルグループを構成するタイムスロットを定義します。



- (注) チャンネルグループ、チャンネル関連信号 (CAS) 音声グループ、DS0 グループ、および時分割多重 (TDM) グループはすべてグループ番号を使用します。チャンネルグループ、CAS 音声グループ、および TDM グループに設定されるすべてのグループ番号は、ローカル Cisco MC3810 コンセントレータ上で一意である必要があります。たとえば、チャンネルグループと TDM グループに同じグループ番号を使用することはできません。さらに、Cisco MC3810 では、コントローラ上で設定できるチャンネルグループは 1 つだけです。

Cisco SLT (Cisco 2611) では、チャンネルグループ番号は 0 または 1 になります。

例

channel-group コマンドは、Cisco MC3810 上の Voice over Frame Relay、Voice over ATM、および Voice over HDLC にも適用されます。

次の例は、グローバル コンフィギュレーション モードで開始し、T1/E1 インターフェイスから AIM-ATM-VOICE-30 DSP カードに HDLC トラフィックを送信する基本設定を示しています。

```
Router(config)# controller e1 1/0
Router(config-controller)# clock source internal
Router(config-controller)# channel-group 0 timeslots 1-31 aim 0
```

次の例では、カプセル化タイプを明示的に PPP に設定して、HDLC のデフォルトを上書きします。

```
Router# configure terminal
Router(config)# controller t1 6/0
Router(config-controller)# channel-group 2 timeslots 3 aim 0
Router(config-controller)# exit
Router(config)# interface serial 6/0:2
Router(config-if)# encapsulation ppp
Router(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.0.0.0
Router(config-if)# no shutdown
Router(config-if)# end
```

次の例は、統合シグナリングリンク ターミナル機能を使用して、カプセル化タイプを SS7 に明示的に設定し、HDLC のデフォルトを上書きする方法を示しています。この例では、スロット 7 に挿入された 8PRI DFC カードを使用し、そのカードのバンク 5 上の DS0 タイムスロット 3 を SS7 リンクとして使用します。

```
Router# configure terminal
Router(config)# controller t1 7/5
Router(config-controller)# channel-group 2 timeslots 3
Router(config-controller)# exit
Router(config)# interface serial 7/5:2
Router(config-if)# encapsulation ss7
Router(config-if)# channel-id 0
Router(config-if)# no shutdown
Router(config-if)# end
```

次の例では、3つのチャンネルグループを定義します。チャンネルグループ 0 は1つのタイムスロットで構成され、チャンネルグループ 8 は7つのタイムスロットで構成され、タイムスロットあたり 64 kbps の速度で実行され、チャンネルグループ 12 は2つのタイムスロットで構成されます。

```
Router(config-controller)# channel-group 0 timeslots 1
Router(config-controller)# channel-group 8 timeslots 5,7,12-15,20 speed 64
Router(config-controller)# channel-group 12 timeslots 2
```

次の例では、Cisco MC3810 のコントローラ T1 0 にチャンネルグループを設定します。

```
Router(config)# controller T1 0
Router(config-controller)# channel-group 10 timeslots 10-64
```

次の例では、コントローラ E1 1 上のチャンネル グループを設定し、すべてのタイム スロットがデータに使用されるように指定します。

```
controller e1 1
channel-group 1 unframed
```



(注) 8PRI ライン カードの SS7 デジタル F リンク サポートでは、トランク DS0 メッセージをオンボード MGC にルーティングするために 3 番目のオンボード TDM ストリームを使用する必要があります。

関連コマンド

コマンド	説明
フレーミング	T1 または E1 データ ラインのフレーム タイプを指定します。
反転データ	チャンネル反転を有効にします。
ラインコード	T1 または E1 回線のラインコードのタイプを指定します。
音声カード	音声処理リソースを使用してカードを設定し、音声カード設定モードに入ります。
カプセル化	カプセル化タイプを設定します。

チャンネル ID

Cisco AS5350 または Cisco AS5400 上で SS7 シリアル リンクにセッション チャンネル ID を割り当てたり、SS7 リンクを SS7 セッション セットに割り当てるには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **channel-id** コマンドを使用します。セッション チャンネル ID リンクを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

チャンネル ID チャンネル ID[セッション セット セッション セット ID]
no チャンネル ID

構文の説明

<i>channel-id</i>	一意のセッション チャンネル ID。このセッション チャンネル ID は、メディア ゲートウェイ コントローラ (MGC) への信頼できるユーザ データグラム プロトコル (RUDP) セッションへのリンクが関連付けられている場合に必要です。
セッション-設定 セッション-設定-ID	(オプション) Cisco AS5350 および Cisco AS5400 ベースの Cisco Signaling Link Terminal (SLT) で SS7 リンクと SS7 セッション セットの関連付けを作成します。 <i>session-set-id</i> 引数は SS7 セッション ID を表します。有効な値は 0 または 1 です。デフォルトは 0 です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

インターフェイス 設定 (config-if)

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(11)T	このコマンドは、Cisco AS5350 および Cisco AS5400 で導入されました。
12.2(15)T	session-set <i>session-set-id</i> キーワードと引数が追加されました。

使用上のガイドライン

channel-id コマンドは、オブジェクトのカプセル化タイプが SS7 に変更されている場合にのみ表示されます。

noshutdown コマンドを使用して SS7 シリアル リンクを有効にする前に、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **channel-id** コマンドを入力して、SS7 シリアル リンクにセッション チャンネル ID を割り当てる必要があります。この ID は Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に固有であり、コマンドはカプセル化タイプが新しい SS7 値であるプロビジョニングされたオブジェクトに対してのみ表示されます。

関連するシリアル インターフェイス オブジェクトに対して **channel-id** コマンドを使用して ID を明示的に割り当てると、チャンネル識別子は予約されます。選択したチャンネル識別子が現在別のリンクに割り当てられている場合、またはすべてのチャンネル識別子がすでに割り当てられている場合、これは失敗します。

nochannel-id コマンドを入力すると、チャンネル識別子が解放されます。これを実行するには、まずリンクをシャットダウンする必要があります。 **nochannel-id** コマンドを Cisco Signaling Link Terminal の複数 OPC サポート機能とともに使用した場合、関連付けられた SS7 リンクにはチャンネル ID がありません。この状態ではリンクは完全に構成されておらず、シグナリングトラフィックをサポートできません。

session-set キーワードを省略すると、コマンドはデフォルトの SS7 セッションセット 0 に適用されます。異なる SS7 セッション ID を使用して **session-set** キーワードを再発行するだけで、関連付けられている SS7 リンクを既存の SS7 セッションセットから削除し、新しいセッションセットに追加することができます。

例

次の例は、Cisco AS5350 または Cisco AS5400 に割り当てられる一意のセッションチャンネル ID ゼロを示しています。

```
Router(config-if) # channel-id 0
```

次の例では、Cisco AS5350 または Cisco AS5400 上の SS7 セッションセットに SS7 リンクを割り当てます。

```
Router(config-if) # channel-id 0 session-set 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
チャンネルグループ	チャンネルグループを割り当て、SS7 リンクに必要な DS0 タイムスロットを選択します。
カプセル化ss7	カプセル化タイプを SS7 に設定します。
noshutdown	ポートの管理状態を非稼働から稼働に変更します。
セッションセット	SS7 リンクと SS7 セッションセットの関連付けを作成するか、Cisco 2600 ベースの SLT で SS7 リンクを SS7 セッションセットに関連付けます。
ss7mtp2バリエーションベルコア	デバイスを Telcordia (旧 Bellcore) 標準に合わせて構成します。

暗号（音声クラス）

暗号設定を構成し、それを TLS プロファイルに関連付けるには、音声クラス設定モードでコマンド **cipher** を使用します。暗号設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

暗号 { **ecdsa** 暗号 [曲線サイズ 384] | **strict-cipher** }

暗号なし

構文の説明

ecdsa 暗号	(オプション) ecdsa-cipher キーワードを指定しない場合、SIP TLS プロセスは、Secure Socket Layer (SSL) のサポートに応じて、より大きな暗号セットを使用します。 サポートされている暗号スイートは次のとおりです。 • TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256 • TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384 • TLS13_AES128_GCM_SHA256 • TLS13_AES256_GCM_SHA384 • TLS13_CHACHA20_POLY1305_SHA256
曲線サイズ 384	(オプション) TLS セッションに使用する楕円曲線の特定のサイズを設定します。384 ビットサイズの楕円曲線を設定できます。
厳密な暗号	(オプション) strict-cipher キーワードは、Advanced Encryption Standard-128 (AES-128) 暗号スイートを使用した Rivest、Shamir、および Adelman (RSA) の TLS 暗号化のみをサポートします。 サポートされている暗号スイートは次のとおりです。 • TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA • TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256 • TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA256 • TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256 • TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384 • TLS13_AES128_GCM_SHA256 • TLS13_AES256_GCM_SHA384 • TLS13_CHACHA20_POLY1305_SHA256 (注) strict-cipher キーワードが指定されていない場合、SIP TLS プロセスは、Secure Socket Layer (SSL) のサポートに応じてデフォルトの暗号セットを使用します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード 音声クラスの構成 (config-class)

コマンド履歴	リリース	変更
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.1a	このコマンドは、音声クラス設定モードで導入されました。 Yang モデルのサポートを導入しました。
	Cisco IOS XE 17.14.1a	このコマンドは、TLS バージョン 1.3 暗号をサポートするように変更されました。 TLS バージョン 1.3 暗号 Yang モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン 暗号設定は、コマンド **voice class tls-profile** タグを通じて TLS プロファイルに関連付けられます。 タグ は、暗号設定をコマンド **暗号シグナリング**に関連付けます。

デフォルトでは、CUBE の Secure Socket Layer (SSL) は次の暗号スイートをサポートしています。

- TLS_ECDHE_ECDSA_AES256_GCM_SHA384
- TLS_ECDHE_ECDSA_AES128_GCM_SHA256
- TLS_ECDHE_RSA_AES128_GCM_SHA256
- TLS_ECDHE_RSA_AES256_GCM_SHA384
- TLS_DHE_RSA_AES256_GCM_SHA384
- TLS_DHE_RSA_AES128_GCM_SHA256
- TLS_DHE_RSA_AES256_CBC_SHA256
- TLS_DHE_RSA_AES128_CBC_SHA256
- TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA
- TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA
- TLS_DHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA
- TLS_DHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA
- TLS_1_3_AES128_GCM_SHA256
- TLS_1_3_AES256_GCM_SHA384
- TLS_1_3_CHACHA20_POLY1305_SHA256

例

次の例は、**voice class tls-profile** を作成し、TLS セッションに必要な楕円曲線設定を関連付ける方法を示しています。


```
Router(config)#voice class tls-profile 2
Router(config-class)#cipher ecdsa-cipher curve-size 384
```

関連コマンド

コマンド	説明
voice class tls-profile	TLS セッションに必要なコマンドを設定するためのサブオプションを提供します。
crypto signaling	TLS ハンドシェイクプロセス中に使用されるトラストポイントまたは tls-profiletag を識別します。

暗号 (音声クラス `tls-cipher`)

サポートされている暗号リストから TLS 暗号スイートを設定するには、音声クラス設定モードで **`cipher cipher-list`** コマンドを使用します。暗号を削除するには、このコマンドの **`no`** 形式を使用します。

暗号暗号リスト暗号名

no暗号暗号リスト

構文の説明

暗号リス ト サポートされている 13 個の暗号のリストを指定します。

暗号名 以下に暗号スイートの名前を示します。

- AES128_GCM_SHA256
- AES256_GCM_SHA384
- CHACHA20_POLY1305_SHA256
- DHE_RSA_AES128_GCM_SHA256
- DHE_RSA_AES256_GCM_SHA384
- DHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA
- DHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA
- ECDHE_RSA_AES128_GCM_SHA256
- ECDHE_RSA_AES256_GCM_SHA384
- RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA
- RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA
- ECDHE_ECDSA_AES128_GCM_SHA256
- ECDHE_ECDSA_AES256_GCM_SHA384

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

音声クラスの設定 (`config-class`)

コマンド履歴

リリース	変更
Cisco IOS XE Cupertino 17.8.1a	このコマンドが導入されました。

リリース	変更
Cisco IOS XE 17.14.1a	TLS バージョン 1.3 暗号のサポートを導入しました。 TLS バージョン 1.3 でサポートされている 3 つの暗号は次のとおりです。 • AES128_GCM_SHA256 • AES256_GCM_SHA384 • CHACHA20_POLY1305_SHA256

使用上のガイドライン

音声クラス設定モードで **cipher cipher-list** コマンドを使用します。

例

次の例は、音声クラス **cipher-list** を作成する方法を示しています。

```
Device(config)# voice class tls-cipher 100
Device(config-class)# cipher 1 DHE_RSA_AES128_GCM_SHA256
```

関連コマンド

コマンド	説明
voice class tls-cipher	TLS 暗号スイートの順序付きセットを構成する
暗号シグナリング	TLS ハンドシェイクプロセス中に使用されるトラストポイントまたは tls-profiletag を識別します。

clear backhaul-session-manager group stats

指定されたセッショングループの統計情報またはトラフィックカウンタをリセットするには、特権 EXEC モードで **clear backhaul-session-manager groupstats** コマンドを使用します。

clear バックホールセッションマネージャグループ統計 {すべて | **name** グループ名}

構文の説明	すべて	利用可能なすべてのセッショングループ。
	名前グループ-名前	指定されたセッショングループ。

コマンド デフォルト 統計情報が蓄積されます。

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.1(1)T	このコマンドが導入されました。
	12.2(2)T	このコマンドが Cisco 7200 に実装されました。
	12.2(4)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco MC3810 に実装されました。
	12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
	12.2(8)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合され、Cisco IAD2420 シリーズに実装されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン セッションはクライアントとサーバ間の接続であり、セッショングループはセッション障害が発生した場合に切り替えを実装するためのグループ内のセッションの集合です。このコマンドは、バックホールセッション マネージャグループに関連するすべての統計をクリアします。

例 次の例では、使用可能なすべてのセッション グループのすべての統計をクリアします。

```
Router(config)# clear backhaul-session-manager group stats all
```

関連コマンド

コマンド	説明
showbackhaul-session-managergroup	指定されたグループまたはすべてのセッショングループのステータス、統計、または構成を表示します。

clear call application interface

アプリケーションインターフェイスの統計情報とイベントログをクリアするには、特権EXECモードで **clearcallapplicationinterface** コマンドを使用します。

clearcallapplication インターフェイス [[{aaa | asr | flash | http | ram | rtsp | smtp | tftp | tts}] server サーバ (Server)] [[イベントログ | 統計]]

構文の説明	aaa	認証、許可、アカウントिंग (AAA) インターフェイス タイプ。
	asr	自動音声認識 (ASR) インターフェース タイプ。
	フラッシュ	Cisco ゲートウェイのフラッシュ メモリ。
	http	HTTP インターフェース タイプ。
	ram	Cisco ゲートウェイのメモリ。
	rtsp	リアルタイムストリーミングプロトコル (RTSP) インターフェイス タイプ。
	SMTP	シンプル メール転送プロトコル (SMTP) インターフェイス タイプ。
	tftp	TFTP インターフェース タイプ。
	tts	テキスト読み上げ (TTS) インターフェース タイプ。
	サーバサーバ	(オプション) 指定されたサーバの統計またはイベントログをクリアします。
	イベントログ	(オプション) イベント ログをクリアします。
	統計	(オプション) 統計カウンタをクリアします。

コマンド モード	特権 EXEC (#)
----------	-------------

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(8)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドは、統計カウンタをゼロにリセットし、アプリケーションインターフェイスのイベントログをクリアします。 キーワードや引数を使用しない場合、このコマンドはすべてのアプリケーションインターフェイスの統計とイベント ログをクリアします。
------------	---

例

次の例では、すべてのアプリケーションインターフェースの統計とイベントログをクリアします。

```
Router# clear call application interface
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationinterfaceevent-log	音声アプリケーションで使用する外部インターフェースのイベント ログを有効にします。
呼び出しアプリケーションインターフェース統計	アプリケーション インターフェースの統計収集を有効にします。
clearcallapplicationstats	履歴内のアプリケーション レベルの統計をクリアし、ゲートウェイ レベルの統計からその統計を減算します。
表示呼び出しアプリケーションインターフェース	アプリケーション インターフェースのイベント ログと統計を表示します。

clear call application stats

履歴内のアプリケーション レベルの統計情報をクリアし、ゲートウェイ レベルの統計情報からその統計情報を減算するには、特権 EXEC モードで **clearcallapplicationstats** コマンドを使用します。

clearcallapplication[アプリタグアプリケーション名]**stats**

構文の説明	アプリタグアプリケーション名 (オプション) 指定された音声アプリケーションの統計をクリアします。
-------	--

コマンドモード	特権 EXEC (#)
---------	-------------

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(8)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、履歴内のアプリケーションレベルのカウンターをゼロにリセットし、ゲートウェイレベルの履歴からカウンターを減算します。アプリケーション名を指定しない場合は、このコマンドはアプリケーション レベルとゲートウェイ レベルですべてのアプリケーションの統計をクリアします。



(注) アプリケーションが **nocallapplicationvoice** コマンドで削除されるか、スクリプトが **callapplicationvoiceload** コマンドで再ロードされると、アプリケーションの統計カウンタは自動的にクリアされます。

例 次の例では、sample_app という名前のアプリケーションの統計をクリアします。

```
Router# clear call application app-tag sample_app stats
```

関連コマンド	コマンド	説明
	callapplicationstats	音声アプリケーションの統計収集を有効にします。
	callapplicationvoiceload	指定された Tcl スクリプトをリロードします。
	clearcallapplicationinterface	アプリケーション インターフェイスの統計とイベント ログをクリアします。

コマンド	説明
callapplicationvoice	指定された Tcl スクリプトまたは VoiceXML ドキュメントを再ロードします。
showcallapplicationapp-level	音声アプリケーションのアプリケーションレベルの統計を表示します。
showcallapplicationgateway-level	音声アプリケーション インスタンスのゲートウェイレベルの統計を表示します。

clear call fallback cache

すべての IP アドレスまたは特定の IP アドレスの現在の Calculated Planning Impairment Factor (ICPIF) 損失/遅延ビジーアウトしきい値推定値のキャッシュをクリアするには、特権 EXEC モードで **clearcallfallbackcache** コマンドを使用します。

clearcallフォールバックcache[ip-address][コーデックコーデックタイプ]

構文の説明	ip-address	(オプション) ターゲット IP アドレス。 IP アドレスが指定されていない場合は、すべての IP アドレスがクリアされます。
	コーデックコーデックタイプ	(オプション) 関連付けられているコーデック タイプを指定します。

コマンド デフォルト IP アドレスが指定されていない場合は、すべての IP アドレスがクリアされます。

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.1(3)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco MC3810 シリーズ ルータで導入されました。
	12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドは変更されました。 公衆交換電話網 (PSTN) フォールバック機能と拡張機能が Cisco 7200 シリーズ ルータに実装され、Cisco IOS リリース 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(4)T2	このコマンドは、Cisco 7500 シリーズ ルータに実装されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合されました。
	15.0(1)M	このコマンドはCisco IOS Release 15.0(1)M より前のリリースで変更されました。 codec キーワードと codec-type 引数が追加されました。

使用上のガイドライン IP アドレスが指定されていない場合、 **clearcallfallbackcache** コマンドは、すべての IP アドレスのすべての CPIF 推定値のキャッシュをクリアします。 使用可能なコーデック タイプは、g711alaw、g711ulaw、g723ar53、g723ar63、g723r53、g723r63、g726r16、g726r24、g726r32、g728、g729abr8、g729ar8、g729br8、g729r8、g729r8 pre-ietf、gsmamr-nb、gsmefr、gsmfr、および None です。

例 次の例では、IP アドレス 10.0.0.0 の ICPIF 推定値のキャッシュをクリアします。

Router#clear call fallback cache 10.0.0.0

関連コマンド

コマンド	説明
showcallfallbackcache	コール フォールバック キャッシュ内のすべての IP アドレスの現在の ICPIF 推定値を表示します。

clear call fallback stats

コール フォールバック 統計をクリアするには、特権 EXEC モードで **clearcallfallbackstats** コマンドを使用します。

クリアcallフォールバック統計

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(3)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco MC3810 で導入されました。
12.2(2)XB1	このコマンドは、Cisco AS5850 プラットフォームに実装されました。
12.2(4)T	PSTN フォールバック機能と拡張機能はCisco 7200 シリーズに実装され、Cisco IOS リリース 12.2(4)T に統合されました。
12.2(4)T2	このコマンドが Cisco 7500 シリーズに実装されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合されました。

例

次の例では、コール フォールバック 統計をクリアします。

```
Router# clear call fallback stats
```

関連コマンド

コマンド	説明
showcallfallbackstats	コールフォールバックの統計を表示します。

clear callmon

コール モニタ ログをクリアするには、特権 EXEC モードで **clearcallmon** コマンドを使用します。

clearコールモン {デッドメモリ | トレース}

構文の説明

デッドメモリ	解放されていない通信メディア モジュール (CMM) ライン カード メモリをクリアします。
トレース	CMM トレース バッファをクリアします。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
15.0(1)M	このコマンドはCisco IOS Release 15.0(1)M より前のリリースで導入しました。

例

次の例は、解放されていない CMM メモリをクリアする方法を示しています。

```
Router# clear callmon dead-memory
```

次の例は、CMM トレース バッファをクリアする方法を示しています。

```
Router# clear callmon trace
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear tgrepneighbor	TGREP カウンターとセッションをクリアします。

clear call threshold

有効になっているコールしきい値統計をクリアするには、特権 EXEC モードで **clearcallthreshold** コマンドを使用します。

clearcallthreshold インターフェイスタイプ *number* {統計 | 合計通話数[値] | **int-calls**[値]}

構文の説明	インターフェイス -	通話が到着するインターフェイスを指定します。 インターフェイスのタイプと数は、設定されているインターフェイスによって異なります。
	タイプ	インターフェースタイプ。 値には次のものが含まれます。 - イーサネット - ファストイーサネット - ギガビットイーサネット - シリアル番号:
	<i>number</i>	インターフェイスまたはサブインターフェイス番号。 ネットワーク デバイスの番号付け構文の詳細については、疑問符 (?) のオンラインヘルプ機能を使用してください。
	統計	すべての通話しきい値統計をリセットします。
	合計-コール値	通話量が指定数に達したらカウンターをリセットします。 値 引数は通話量を表します。 範囲は 0 から 10,000 コールです。 デフォルトは 0 です。
	int-calls 値	インターフェイスを介して送信された通話の数。 <i>value</i> 引数は、インターフェイスを介して指定された音量に達したときに通話をクリアします。 範囲は 0 から 10,000 コールです。 デフォルトは 0 です。

コマンド デフォルト **total-calls** および **int-calls** キーワードのデフォルト設定は 0 で、すべてのしきい値統計が直ちにリセットされます。 **stats** がデフォルトのキーワードです。

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(4)T に統合されました。 Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 のサポートは、このリリースには含まれていません。

リリース	変更
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(4)XM	このコマンドは、Cisco 1750 および Cisco 1751 ルータに実装されました。このリリースには、他の Cisco プラットフォームのサポートは含まれていません。
12.2(8)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合され、Cisco 7200 シリーズルータに実装されました。Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 のサポートは、このリリースには含まれていません。
12.2(11)T	このコマンドは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850 に実装されました。

例

次の例では、すべての通話しきい値統計をリセットします。

```
clear call threshold stats
```

次の例では、ゲートウェイ内のすべての通話量のカウンタをリセットします。

```
clear call threshold total-calls
```

次の例では、イーサネットインターフェイス 0/1 の通話量が 5000 コールに達したときにカウンタをリセットします。

```
clear call threshold interface ethernet 0/1 int-calls 5000
```

次の例では、GigabitEthernet インターフェイス上のすべてのコールしきい値統計のカウ
ンタをリセットします。

```
Device# clear call threshold interface GigabitEthernet stats
```

関連コマンド

コマンド	説明
通話しきい値	ゲートウェイのグローバル リソースを有効にします。
呼び出ししきい値ポーリング間隔	CPU またはメモリのポーリング間隔のしきい値を有効にします。
showcalltreatment	リソースの可用性に基づいて通話を処理するための通話処理構成と統計を表示します。

clear call treatment stats

コール処理統計をクリアするには、特権 EXEC モードで **clearcalltreatmentstats** コマンドを使用します。

クリアcall処置統計

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
12.2(4)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(4)T に統合されました。このリリースには、Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 シリーズのサポートは含まれていません。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(4)XM	このコマンドは、Cisco 1750 および Cisco 1751 ルータに実装されました。このリリースには、他の Cisco プラットフォームのサポートは含まれていません。
12.2(8)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合され、Cisco 7200 シリーズルータに実装されました。Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 のサポートは、このリリースには含まれていません。
12.2(11)T	この機能は Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合され、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5800 のサポートが追加されました。

例

次の例では、コール処理統計をクリアします。

```
clear call treatment stats
```

関連コマンド

コマンド	説明
calltreatmenton	ローカルリソースが利用できない場合に通話を処理するための通話処理を有効にします。
calltreatmentaction	ローカルリソースが利用できない場合にルータが実行するアクションを設定します。
calltreatmentcause-code	ローカルリソースが利用できない場合に、発信者への切断理由を指定します。

コマンド	説明
calltreatmentisdn-reject	ローカルリソースが利用できない場合にISDN呼び出しを拒否する原因コードを指定します。
showcalltreatment	リソースの可用性に基づいて通話进行处理するための通話処理構成と統計を表示します。

clear call voice

RTP または RTCP アクティビティがないため非アクティブとして検出された 1 つ以上の音声通話をクリアするには、ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **clear call voice** コマンドを使用します。

clearcall音声 {古いエントリ | 原因コード識別子 {**id**識別子 | メディア非アクティブ | 発信番号 *number* | **called-number***number* | **fpi-correlator**相関器 *ID* | **fpi-stale** | 長時間の呼び出し}}

構文の説明

古いエントリ	古くなった、または無効であると判断されたアクティブな通話のエントリを通話テーブルからクリアします。
原因コード	Q.850 切断原因コードを指定します。
識別子	数値原因コード識別子。1 ～ 127 の数字。
id 識別子	指定された ID を持つ特定の呼び出しを 1 つクリアします。識別子引数は、簡潔な形式で表示される呼び出し識別子です。
メディア非アクティブ	メディアが非アクティブであるステータスが検出され通知された場合は、通話をクリアします。
発信番号 番号	特定の発信番号パターンを持つ通話をクリアします。 <i>number</i> 引数は、発信番号の特定の通話番号パターンです。
called-number <i>number</i>	特定の着信番号パターンを持つ通話をクリアします。 <i>number</i> 引数は、発信番号の特定の着信番号号パターンです。
fpi-correlator <i>correlator-id</i>	VoIP FPI コリレータに基づいて通話をクリアします。
fpi-stale	ハングしたすべての FPI 呼び出しをクリアします。
長時間の呼び出し	長時間の通話が検出され通知された通話のみをクリアします。

コマンド デフォルト

このコマンドは無効になっており、通話はクリアされません。

コマンド モード

ユーザ EXEC (>)
特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(3)T	このコマンドが導入されました。
12.2	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.2 に統合されました。

リリース	変更
12.3(4)T	voice キーワードが追加されました。
12.4(4)T	calling-number および called-number キーワードが追加されました。
15.5(2)T	fpi-correlator キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン ハングした通話がある場合、すべてのレイヤーで通話リソースをクリアするには、**clear call voice** コマンドを使用します。このコマンドに **no** 形式はありません。

FPI コリレータ ID は、**show voip fpi calls** コマンドを実行することによって取得できます。

例

次の例では、原因コード ID 16 の非アクティブな音声通話をクリアします。

```
Router# clear call voice causecode 16 fpi-correlator 2
```

次の例は、クリアする古いエントリがないことを示しています。

```
Router# clear call voice stale-entry
No stale entry found
```

関連コマンド

コマンド	説明
show call active voice	指定されたパラメータに基づいてアクティブな音声通話を表示します。

clear call-router routes

境界要素 (BE) にキャッシュされた動的ルートを削除するには、特権 EXEC モードで **clearcall-routerroutes** コマンドを使用します。

clearcall-routerroutes

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 のサポートは、このリリースには含まれていません。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。
12.2(11)T	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合され、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 に実装されました。

例

次の例は、BE にキャッシュされた動的ルートを削除する方法を示しています。

```
Router# clear call-router routes
```

関連コマンド

コマンド	説明
コールルー ター	Annex G BE 構成コマンドを有効にします。
showcallhistory	FAX 送信の FAX 履歴テーブルを表示します。

clear controller call-counters

システム DS0 の最高水準点 (HWM) とすべての個別のコントローラ統計情報をクリアするには、特権 EXEC モードで **clearcontrollercall-counters** コマンドを使用します。

clearコントローラコールカウンター {system-hwm | all}

構文の説明

system-hwm	システム HWM のみをクリアします。
すべて	使用中の個々のコントローラ タイム スロットと、最後のリセット以降に行われたそれらのタイムスロットでの呼び出し回数を含む、すべてのコントローラ呼び出しカウンタをクリアします。HWM は 0 に設定されます。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(1)T	このコマンドが導入されました。
12.1(1)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズの音声/WAN インターフェイス カード (VWIC) に実装されました。
12.1(2)T	このコマンドが Cisco AS5300、Cisco AS5400、および Cisco AS5800 に実装されました。

使用上のガイドライン

clearcontrollercall-countersall コマンドは、システム DS0 HWM と、TotalCalls および Total Duration を含むすべての個別のコントローラ統計をクリアします。

clearcontrollercall-counterssystem-hwm コマンドは、システム DS0 HWM をクリアし、その他のすべてのコール カウンタ統計はそのまま残します。

clearcontrollercall-counters および **clearcontrollert1call-counters** 関連コマンドの実行前と実行後に表示されるコールカウンタの意味については、次のコメントを参照してください。

- 各時間帯の TotalCalls の下に表示される数字は、正常に接続した通話の合計数を表します。タイムスロット 10 にコールが着信すると、**showcontrollerst1call-counters** コマンドにより、タイムスロット 10 の TotalCalls 列に 1 が表示されます。タイムスロット 10 の TotalCalls の下に表示される値 20 は、最後にコールカウンタがクリアされてからタイムスロット 10 に接続されたコールの合計数が 20 であることを示します。
- DS0s Active フィールドは、指定されたコントローラ上のアクティブなコールの数を示します。この数値は、特定の時点でのコントローラ上の現在の呼び出し数を示します。

- DS0 アクティブ上限フィールドは、HWM またはコールが最後にクリアされて以来のコントローラのコールのピーク数を示します。アクティブコールの数「DS0s Active」が DS0s HWM より少ない場合、HWM は変更されません。新しいコールが着信し、アクティブな DS0 が HWM を超える場合、そのコントローラの新しいピークコール数を反映するために HWM が増加します。

コールカウンタがクリアされると、この値は現在のアクティブ DS0 にリセットされます。たとえば、HWM は最初は 0 です。新しい通話が着信すると、HWM は 1 になります。次の通話が着信すると、HWM は 2 になります。

20 件のコールが着信すると、HWM は 20 で、アクティブな DS0 は 20 です。5 件のコールが切断されると、アクティブな DS0 は 15 ですが、HWM は 20 です。指定されたコントローラに対して **clearcontroller** コマンドが入力されると、HWM は 15 にリセットされ、これは現在のアクティブな DS0 でもあります。10 件の通話が切断された場合、アクティブ DS0 は 5 に設定され、別の **clearcontroller** コマンドが入力されるまで HWM は 15 のままになります。アクティブ DS0 が 15 を超えると、HWM が更新されます。

- システム DS0 の上限フィールドは、すべての DS0 コントローラを含むシステムレベルの HWM を反映します。

例

次のサンプル出力は、HWM がリセットされた後に何が起こるかを示しています。

```
Router# clear controller call-counters system-hwm
!
Router# show controllers t1 call-counters
T1 1/3/0:3:
  DS0's Active: 2
  DS0's Active High Water Mark: 2
  TimeSlot   Type   TotalCalls   TotalDuration
    1         pri         0         00:00:00
    2         pri         0         00:00:00
    3         pri         0         00:00:00
    4         pri         0         00:00:00
    5         pri         0         00:00:00
    6         pri         0         00:00:00
    7         pri         0         00:00:00
    8         pri         0         00:00:00
    9         pri         0         00:00:00
   10         pri         0         00:00:00
   11         pri         0         00:00:00
   12         pri         0         00:00:00
   13         pri         0         00:00:00
   14         pri         0         00:00:00
   15         pri         0         00:00:00
   16         pri         0         00:00:00
   17         pri         0         00:00:00
   18         pri         0         00:00:00
   19         pri         0         00:00:00
   20         pri         0         00:00:00
   21         pri         0         00:00:00
   22         pri         1         00:08:51
   23         pri         1         00:09:21
T1 1/3/0:8:
  DS0's Active: 1
  DS0's Active High Water Mark: 1
```

TimeSlot	Type	TotalCalls	TotalDuration
1	pri	0	00:00:00
2	pri	0	00:00:00
3	pri	0	00:00:00
4	pri	0	00:00:00
5	pri	0	00:00:00
6	pri	0	00:00:00
7	pri	0	00:00:00
8	pri	0	00:00:00
9	pri	0	00:00:00
10	pri	0	00:00:00
11	pri	0	00:00:00
12	pri	0	00:00:00
13	pri	0	00:00:00
14	pri	0	00:00:00
15	pri	0	00:00:00
16	pri	0	00:00:00
17	pri	0	00:00:00
18	pri	0	00:00:00
19	pri	0	00:00:00
20	pri	0	00:00:00
21	pri	0	00:00:00
22	pri	0	00:01:39
23	pri	0	00:00:00

System's DS0's Active High Water Mark: 3

上記の例では、システム HWM はシステム内のアクティブな通話の合計数である 3 にリセットされます。その数は 4 でした。通話が切断されると、HWM 値は変更されません。DS0 アクティブ値のみが変更されます。上記では、1/3/0:3 に 1 件の呼び出しのみがあります。個々のコントローラーの HWM を観察します。アクティブ通話の合計数は 1 です。

以下は、**clearcontrollercall-counterssystem-hwm** コマンドを使用した場合の出力例です。

```
Router# clear controller call-counters system-hwm
!
Router# show controllers t1 call-counters
T1 1/3/0:3:
  DS0's Active: 1
  DS0's Active High Water Mark: 2
  TimeSlot  Type  TotalCalls  TotalDuration
    1         pri         0         00:00:00
    2         pri         0         00:00:00
    3         pri         0         00:00:00
    4         pri         0         00:00:00
    5         pri         0         00:00:00
    6         pri         0         00:00:00
    7         pri         0         00:00:00
    8         pri         0         00:00:00
    9         pri         0         00:00:00
   10         pri         0         00:00:00
   11         pri         0         00:00:00
   12         pri         0         00:00:00
   13         pri         0         00:00:00
   14         pri         0         00:00:00
   15         pri         0         00:00:00
   16         pri         0         00:00:00
   17         pri         0         00:00:00
   18         pri         0         00:00:00
   19         pri         0         00:00:00
```

```

20      pri      0      00:00:00
21      pri      0      00:00:00
22      pri      1      00:12:16
23      pri      1      00:10:20
Tl 1/3/0:8:
DS0's Active: 0
DS0's Active High Water Mark: 1
TimeSlot  Type  TotalCalls  TotalDuration
1          pri      0      00:00:00
2          pri      0      00:00:00
3          pri      0      00:00:00
4          pri      0      00:00:00
5          pri      0      00:00:00
6          pri      0      00:00:00
7          pri      0      00:00:00
8          pri      0      00:00:00
9          pri      0      00:00:00
10         pri      0      00:00:00
11         pri      0      00:00:00
12         pri      0      00:00:00
13         pri      0      00:00:00
14         pri      0      00:00:00
15         pri      0      00:00:00
16         pri      0      00:00:00
17         pri      0      00:00:00
18         pri      0      00:00:00
19         pri      0      00:00:00
20         pri      0      00:00:00
21         pri      0      00:00:00
22         pri      0      00:02:50
23         pri      0      00:00:00
System's DS0's Active High Water Mark: 1

```

前の例では、システム HWM のみがアクティブにリセットされます。コントローラ 1/3/0:3 および 1/3/0:8 の場合、HWM は変更されません。

以下は、**all** キーワードを使用してシステム レベルでクリアした場合の出力例です。

```

Router# clear controller call-counters all
!
Router# show controllers t1 call-counters
Tl 1/3/0:3:
DS0's Active: 0
DS0's Active High Water Mark: 0
TimeSlot  Type  TotalCalls  TotalDuration
1          pri      0      00:00:00
2          pri      0      00:00:00
3          pri      0      00:00:00
4          pri      0      00:00:00
5          pri      0      00:00:00
6          pri      0      00:00:00
7          pri      0      00:00:00
8          pri      0      00:00:00
9          pri      0      00:00:00
10         pri      0      00:00:00
11         pri      0      00:00:00
12         pri      0      00:00:00
13         pri      0      00:00:00
14         pri      0      00:00:00
15         pri      0      00:00:00
16         pri      0      00:00:00
17         pri      0      00:00:00
18         pri      0      00:00:00

```



```

19      pri      0      00:00:00
20      pri      0      00:00:00
21      pri      0      00:00:00
22      pri      0      00:00:00
23      pri      0      00:00:00
T1 1/3/0:8:
DS0's Active: 0
DS0's Active High Water Mark: 0
TimeSlot  Type  TotalCalls  TotalDuration
1          pri      0      00:00:00
2          pri      0      00:00:00
3          pri      0      00:00:00
4          pri      0      00:00:00
5          pri      0      00:00:00
6          pri      0      00:00:00
7          pri      0      00:00:00
8          pri      0      00:00:00
9          pri      0      00:00:00
10         pri      0      00:00:00
11         pri      0      00:00:00
12         pri      0      00:00:00
13         pri      0      00:00:00
14         pri      0      00:00:00
15         pri      0      00:00:00
16         pri      0      00:00:00
17         pri      0      00:00:00
18         pri      0      00:00:00
19         pri      0      00:00:00
20         pri      0      00:00:00
21         pri      0      00:00:00
22         pri      0      00:00:00
23         pri      0      00:00:00
System's DS0's Active High Water Mark: 0

```

上記の例では、**clearcontrollercall-counters** コマンドを使用してシステム レベルでクリアすると、システム内のすべての DS0 コントローラがクリアされ、システム HWM もクリアされます。

関連コマンド

コマンド	説明
clearcontrollert1call-counters	特定の T1 コントローラ上の呼び出し統計をクリアします。
コントローラ	コントローラ設定モードに入ります。
showcontrollerst1call-counters	T1 コントローラ上の通話の合計数と通話時間を表示します。

clear controller t1

システム DS0 の最高水準点 (HWM) とすべての個別のコントローラ統計情報をクリアするには、特権 EXEC モードで **clearcontrollert1** コマンドを使用します。

クリアコントローラt1[スロット]call-countersタイムスロットファームウェアステータス

構文の説明	スロット	(オプション) 個々の T1 コントローラをクリアします。
	call-counterstimeslots	指定された T1 タイムスロットのコールカウンタをクリアします。
	ファームウェア-ステータス	Neat のクラッシュ履歴をクリアします。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(1)T	このコマンドが導入されました。
	12.1(1)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズの音声および WAN インターフェイス カード (VWIC) に実装されました。
	12.1(2)T	このコマンドが Cisco AS5300、Cisco AS5400、および Cisco AS5800 に実装されました。

使用上のガイドライン **clearcontrollert1** 関連コマンドの実行前後に表示される呼び出しカウンターの意味については、次のコメントを参照してください。

- 各時間帯の TotalCalls の下に表示される数字は、正常に接続した通話の合計数を表します。タイムスロット 10 にコールが着信すると、**showcontrollerst1call-counters** コマンドにより、タイムスロット 10 の TotalCalls 列に 1 が表示されます。タイムスロット 10 の TotalCalls の下に表示される値 20 は、最後にコールカウンタがクリアされてからタイムスロット 10 に接続されたコールの合計数が 20 であることを示します。

時間帯または時間帯の範囲が指定されている場合は、それらのチャンネルのカウンタのみがクリアされます。TotalCalls フィールドには、最後のクリアが行われてから通話が接続された時間帯が表示されますが、コントローラ内のアクティブな通話の数は表示されません。TotalDuration フィールドには、TotalCalls フィールドと同じ情報が表示されます。

- DS0 のアクティブ フィールドは、指定されたコントローラ上のアクティブな通話の数を示します。この数値は、特定の時点でのコントローラの現在のコール数を示します。

- DS0 の Active High Water Mark フィールドは、最後に **clearcontrollert11/0/0call-counters** コマンドが入力されて以降のコントローラ上のコールのピーク数を示します。アクティブコールの数「DS0's Active」が DS0 の HWM より少ない場合、HWM は変更されません。新しいコールが着信し、アクティブな DS0 が HWM を超える場合、そのコントローラの新しいピークコール数を反映するために HWM が増加します。

clearcontrollert11/3/0call-counters コマンドが入力されると、この値は現在のアクティブな DS0 にリセットされます。たとえば、HWM は最初は 0 です。新しい通話が着信すると、HWM は 1 になります。次の通話が着信すると、HWM は 2 になります。

20 件のコールが着信すると、HWM は 20 で、アクティブな DS0 は 20 です。5 件のコールが切断されると、アクティブな DS0 は 15 ですが、HWM は 20 です。指定されたコントローラに対して **clearcontroller** コマンドが入力されると、HWM は 15 にリセットされ、これは現在のアクティブな DS0 でもあります。10 件の通話が切断された場合、アクティブ DS0 の値は 5 に設定され、別の **clearcontroller** コマンドが入力されるまで HWM は 15 のままになります。アクティブ DS0 が 15 を超えると、HWM が更新されます。

- システム DS0 の高水準点フィールドは、すべての DS0 コントローラを含むシステムレベルの HWM を反映します。

例

以下は、1/3/0:3 と 1/3/0:8 の番号が付けられた 2 つのコントローラを示すサンプル出力です。 **showcontrollerst1call-counters** コマンドによって表示される出力の違いと、**clearcontrollert1call-counters** コマンドが出力にどのように影響するかに注意してください。

```
Router# show controllers t1 call-counters
T1 1/3/0:3:
DS0's Active: 0
DS0's Active High Water Mark: 0
TimeSlot  Type  TotalCalls  TotalDuration
1          pri      0          00:00:00
2          pri      0          00:00:00
3          pri      0          00:00:00
4          pri      0          00:00:00
5          pri      0          00:00:00
6          pri      0          00:00:00
7          pri      0          00:00:00
8          pri      0          00:00:00
9          pri      0          00:00:00
10         pri      0          00:00:00
11         pri      0          00:00:00
12         pri      0          00:00:00
13         pri      0          00:00:00
14         pri      0          00:00:00
15         pri      0          00:00:00
16         pri      0          00:00:00
17         pri      0          00:00:00
18         pri      0          00:00:00
19         pri      0          00:00:00
20         pri      0          00:00:00
21         pri      0          00:00:00
22         pri      0          00:00:00
23         pri      0          00:00:00
T1 1/3/0:8:
```

```

DS0's Active: 0
DS0's Active High Water Mark: 0
TimeSlot  Type  TotalCalls  TotalDuration
   1      pri         0      00:00:00
   2      pri         0      00:00:00
   3      pri         0      00:00:00
   4      pri         0      00:00:00
   5      pri         0      00:00:00
   6      pri         0      00:00:00
   7      pri         0      00:00:00
   8      pri         0      00:00:00
   9      pri         0      00:00:00
  10      pri         0      00:00:00
  11      pri         0      00:00:00
  12      pri         0      00:00:00
  13      pri         0      00:00:00
  14      pri         0      00:00:00
  15      pri         0      00:00:00
  16      pri         0      00:00:00
  17      pri         0      00:00:00
  18      pri         0      00:00:00
  19      pri         0      00:00:00
  20      pri         0      00:00:00
  21      pri         0      00:00:00
  22      pri         0      00:00:00
  23      pri         0      00:00:00
System's DS0's Active High Water Mark: 0

```



(注) 前の例では、すべてのフィールドがゼロであり、システムの起動以降、または **clearcontroller** コマンドによって最後にクリアされてから、通話が着信していないことを示しています。

以下は、1/5/12、1/5/13、1/5/14、および 1/5/15 コントローラで 4 つの呼び出しが開始されたことを示すサンプル出力です。

```

Router# show users
      Line      User      Host(s)      Idle      Location
*  0 con 0      idle      idle      00:00:00
tty 1/5/12  Router Async interface  00:01:05  PPP: 55.61.1.1
tty 1/5/13  Router Async interface  00:00:48  PPP: 55.62.1.1
tty 1/5/14  Router Async interface  00:00:33  PPP: 55.54.1.1
tty 1/5/15  Router Async interface  00:00:19  PPP: 55.52.1.1
Interface  User      Mode      Idle Peer Address
Router# show controllers t1 call-counters
T1 1/3/0:3:
DS0's Active: 2
DS0's Active High Water Mark: 2
TimeSlot  Type  TotalCalls  TotalDuration
   1      pri         0      00:00:00
   2      pri         0      00:00:00
   3      pri         0      00:00:00
   4      pri         0      00:00:00
   5      pri         0      00:00:00
   6      pri         0      00:00:00
   7      pri         0      00:00:00
   8      pri         0      00:00:00
   9      pri         0      00:00:00
  10      pri         0      00:00:00
  11      pri         0      00:00:00

```

```

12      pri      0      00:00:00
13      pri      0      00:00:00
14      pri      0      00:00:00
15      pri      0      00:00:00
16      pri      0      00:00:00
17      pri      0      00:00:00
18      pri      0      00:00:00
19      pri      0      00:00:00
20      pri      0      00:00:00
21      pri      0      00:00:00
22      pri      1      00:01:58
23      pri      1      00:02:27
T1 1/3/0:8:
DS0's Active: 2
DS0's Active High Water Mark: 2
TimeSlot  Type  TotalCalls  TotalDuration
1          pri      0          00:00:00
2          pri      0          00:00:00
3          pri      0          00:00:00
4          pri      0          00:00:00
5          pri      0          00:00:00
6          pri      0          00:00:00
7          pri      0          00:00:00
8          pri      0          00:00:00
9          pri      0          00:00:00
10         pri      0          00:00:00
11         pri      0          00:00:00
12         pri      0          00:00:00
13         pri      0          00:00:00
14         pri      0          00:00:00
15         pri      0          00:00:00
16         pri      0          00:00:00
17         pri      0          00:00:00
18         pri      0          00:00:00
19         pri      0          00:00:00
20         pri      0          00:00:00
21         pri      0          00:00:00
22         pri      1          00:02:14
23         pri      1          00:02:46
System's DS0's Active High Water Mark: 4

```

上記の例では、過去30分間に接続されたアクティブな通話があるコントローラに対して **clearcontroller** コマンドを入力すると、TotalCalls フィールドと TotalDuration フィールドがゼロにリセットされます。

以下は、タイムスロット 22 および 23 が接続されアクティブになっているコントローラ 1/3/0:3 を示すサンプル出力です。 **clearcontrollert1/3/0:3call-counters** コマンドが入力されると、対応するフィールドがゼロに設定されます。

```

Router# clear controller t1 1/3/0:3 call-counters
!
Router# show controllers t1 call-counters
T1 1/3/0:3:
DS0's Active: 2
DS0's Active High Water Mark: 2
TimeSlot  Type  TotalCalls  TotalDuration
1          pri      0          00:00:00
2          pri      0          00:00:00
3          pri      0          00:00:00
4          pri      0          00:00:00
5          pri      0          00:00:00
6          pri      0          00:00:00

```

```

7      pri      0      00:00:00
8      pri      0      00:00:00
9      pri      0      00:00:00
10     pri      0      00:00:00
11     pri      0      00:00:00
12     pri      0      00:00:00
13     pri      0      00:00:00
14     pri      0      00:00:00
15     pri      0      00:00:00
16     pri      0      00:00:00
17     pri      0      00:00:00
18     pri      0      00:00:00
19     pri      0      00:00:00
20     pri      0      00:00:00
21     pri      0      00:00:00
22     pri      1      00:29:14
23     pri      1      00:29:47
Router# clear controller t1 1/3/0:3 call-counters
Router# show controllers t1 call-counters
Tl 1/3/0:3:
DS0's Active: 2
DS0's Active High Water Mark: 2
TimeSlot  Type  TotalCalls  TotalDuration
1         pri      0      00:00:00
2         pri      0      00:00:00
3         pri      0      00:00:00
4         pri      0      00:00:00
5         pri      0      00:00:00
6         pri      0      00:00:00
7         pri      0      00:00:00
8         pri      0      00:00:00
9         pri      0      00:00:00
10        pri      0      00:00:00
11        pri      0      00:00:00
12        pri      0      00:00:00
13        pri      0      00:00:00
14        pri      0      00:00:00
15        pri      0      00:00:00
16        pri      0      00:00:00
17        pri      0      00:00:00
18        pri      0      00:00:00
19        pri      0      00:00:00
20        pri      0      00:00:00
21        pri      0      00:00:00
22        pri      0      00:00:10  <<<<<<
23        pri      0      00:00:10  <<<<<<
```

以下は、1/5/12 に通話がクリアされたときのサンプル出力です。

```

Router# clear line 1/5/12
[confirm]
[OK]
!
Router# show users
Line      User      Host(s)      Idle      Location
*  0 con 0      idle      00:00:00
tty 1/5/13  Router Async interface  00:03:04  PPP: 55.62.1.1
tty 1/5/14  Router Async interface  00:02:49  PPP: 55.54.1.1
tty 1/5/15  Router Async interface  00:02:35  PPP: 55.52.1.1
Interface  User      Mode      Idle Peer Address
Router# show controllers t1 call-counters
Tl 1/3/0:3:
DS0's Active: 2
```

```

DS0's Active High Water Mark: 2
TimeSlot  Type  TotalCalls  TotalDuration
1          pri      0          00:00:00
2          pri      0          00:00:00
3          pri      0          00:00:00
4          pri      0          00:00:00
5          pri      0          00:00:00
6          pri      0          00:00:00
7          pri      0          00:00:00
8          pri      0          00:00:00
9          pri      0          00:00:00
10         pri      0          00:00:00
11         pri      0          00:00:00
12         pri      0          00:00:00
13         pri      0          00:00:00
14         pri      0          00:00:00
15         pri      0          00:00:00
16         pri      0          00:00:00
17         pri      0          00:00:00
18         pri      0          00:00:00
19         pri      0          00:00:00
20         pri      0          00:00:00
21         pri      0          00:00:00
22         pri      1          00:03:44
23         pri      1          00:04:14
T1 1/3/0:8:
DS0's Active: 1
DS0's Active High Water Mark: 2
TimeSlot  Type  TotalCalls  TotalDuration
1          pri      0          00:00:00
2          pri      0          00:00:00
3          pri      0          00:00:00
4          pri      0          00:00:00
5          pri      0          00:00:00
6          pri      0          00:00:00
7          pri      0          00:00:00
8          pri      0          00:00:00
9          pri      0          00:00:00
10         pri      0          00:00:00
11         pri      0          00:00:00
12         pri      0          00:00:00
13         pri      0          00:00:00
14         pri      0          00:00:00
15         pri      0          00:00:00
16         pri      0          00:00:00
17         pri      0          00:00:00
18         pri      0          00:00:00
19         pri      0          00:00:00
20         pri      0          00:00:00
21         pri      0          00:00:00
22         pri      1          00:04:00
23         pri      1          00:03:34
System's DS0's Active High Water Mark: 4

```

通話が切断された後は、コントローラ上の現在のアクティブな通話を反映するために、DS0 Active フィールドのみが変更されます。上記の例では、1/3/0:8 DS0 Active が 1 に変更されます。

以下は、1/3/0:8 の個々のコントローラの呼び出しカウンターがクリアされたことを示すサンプル出力です。

```
Router# clear controller t1 1/3/0:8 call-counters
```

```

!
Router# show controllers t1 call-counters
T1 1/3/0:3:
  DS0's Active: 2
  DS0's Active High Water Mark: 2
  TimeSlot   Type   TotalCalls   TotalDuration
    1         pri         0         00:00:00
    2         pri         0         00:00:00
    3         pri         0         00:00:00
    4         pri         0         00:00:00
    5         pri         0         00:00:00
    6         pri         0         00:00:00
    7         pri         0         00:00:00
    8         pri         0         00:00:00
    9         pri         0         00:00:00
   10         pri         0         00:00:00
   11         pri         0         00:00:00
   12         pri         0         00:00:00
   13         pri         0         00:00:00
   14         pri         0         00:00:00
   15         pri         0         00:00:00
   16         pri         0         00:00:00
   17         pri         0         00:00:00
   18         pri         0         00:00:00
   19         pri         0         00:00:00
   20         pri         0         00:00:00
   21         pri         0         00:00:00
   22         pri         1         00:07:46
   23         pri         1         00:08:15
T1 1/3/0:8:
  DS0's Active: 1
  DS0's Active High Water Mark: 1
  TimeSlot   Type   TotalCalls   TotalDuration
    1         pri         0         00:00:00
    2         pri         0         00:00:00
    3         pri         0         00:00:00
    4         pri         0         00:00:00
    5         pri         0         00:00:00
    6         pri         0         00:00:00
    7         pri         0         00:00:00
    8         pri         0         00:00:00
    9         pri         0         00:00:00
   10         pri         0         00:00:00
   11         pri         0         00:00:00
   12         pri         0         00:00:00
   13         pri         0         00:00:00
   14         pri         0         00:00:00
   15         pri         0         00:00:00
   16         pri         0         00:00:00
   17         pri         0         00:00:00
   18         pri         0         00:00:00
   19         pri         0         00:00:00
   20         pri         0         00:00:00
   21         pri         0         00:00:00
   22         pri         0         00:00:35
   23         pri         0         00:00:00
System's DS0's Active High Water Mark: 4

```

前の例では、コントローラ 1/3/0:8 のコール カウンターをクリアした後、TotalCalls と TotalDuration がリセットされます。さらに、DS0 HWM もアクティブな DS0 の数までクリアされます。DS0 HWM がクリアされても、ゼロにリセットされるのではなく、アクティブ DS0 に設定されます。1/3/0:8 の場合、DS0 Active が 1 (アクティブ コール

1件)であるため、クリア後のHWMは1になります。タイムスロット22のTotalDurationは35秒で、TotalCallは0です。これは、**clearcontrollercall-counters** コマンドが入力されたときにリセットされたためです。このタイムスロットに新しいコールが着信すると、このタイムスロットの合計コール数が増加します。

以下は、コントローラ 1/5/15 がクリアされた場合の出力例です。

```
Router# clear line 1/5/15
[confirm]
[OK]
Router# show controllers t1 call-counters
T1 1/3/0:3:
  DS0's Active: 0
  DS0's Active High Water Mark: 2
  TimeSlot  Type  TotalCalls  TotalDuration
    1         pri         0         00:00:00
    2         pri         0         00:00:00
    3         pri         0         00:00:00
    4         pri         0         00:00:00
    5         pri         0         00:00:00
    6         pri         0         00:00:00
    7         pri         0         00:00:00
    8         pri         0         00:00:00
    9         pri         0         00:00:00
   10         pri         0         00:00:00
   11         pri         0         00:00:00
   12         pri         0         00:00:00
   13         pri         0         00:00:00
   14         pri         0         00:00:00
   15         pri         0         00:00:00
   16         pri         0         00:00:00
   17         pri         0         00:00:00
   18         pri         0         00:00:00
   19         pri         0         00:00:00
   20         pri         0         00:00:00
   21         pri         0         00:00:00
   22         pri         1         00:12:40
   23         pri         1         00:10:20
T1 1/3/0:8:
  DS0's Active: 0
  DS0's Active High Water Mark: 1
  TimeSlot  Type  TotalCalls  TotalDuration
    1         pri         0         00:00:00
    2         pri         0         00:00:00
    3         pri         0         00:00:00
    4         pri         0         00:00:00
    5         pri         0         00:00:00
    6         pri         0         00:00:00
    7         pri         0         00:00:00
    8         pri         0         00:00:00
    9         pri         0         00:00:00
   10         pri         0         00:00:00
   11         pri         0         00:00:00
   12         pri         0         00:00:00
   13         pri         0         00:00:00
   14         pri         0         00:00:00
   15         pri         0         00:00:00
   16         pri         0         00:00:00
   17         pri         0         00:00:00
   18         pri         0         00:00:00
   19         pri         0         00:00:00
   20         pri         0         00:00:00
```

```

21      pri      0      00:00:00
22      pri      0      00:02:50
23      pri      0      00:00:00
System's DS0's Active High Water Mark: 1

```

以下は 4 つのアクティブな通話を示すサンプル出力です。

```

Router# show users
Line      User      Host(s)      Idle      Location
*  0 con 0      idle      00:00:00
tty 1/5/16 Router Async interface 00:01:01 PPP: 55.1.1.1
tty 1/5/17 Router Async interface 00:00:47 PPP: 55.2.1.1
tty 1/5/18 Router Async interface 00:00:28 PPP: 55.3.1.1
tty 1/5/19 Router Async interface 00:00:14 PPP: 55.4.1.1
Interface User      Mode      Idle Peer Address
Router# show controllers t1 call-counters
T1 1/3/0:3:
DS0's Active: 2
DS0's Active High Water Mark: 2
TimeSlot  Type      TotalCalls  TotalDuration
1         pri      0           00:00:00
2         pri      0           00:00:00
3         pri      0           00:00:00
4         pri      0           00:00:00
5         pri      0           00:00:00
6         pri      0           00:00:00
7         pri      0           00:00:00
8         pri      0           00:00:00
9         pri      0           00:00:00
10        pri      0           00:00:00
11        pri      0           00:00:00
12        pri      0           00:00:00
13        pri      0           00:00:00
14        pri      0           00:00:00
15        pri      0           00:00:00
16        pri      0           00:00:00
17        pri      0           00:00:00
18        pri      0           00:00:00
19        pri      0           00:00:00
20        pri      0           00:00:00
21        pri      0           00:00:00
22        pri      1           00:00:57
23        pri      1           00:01:30
T1 1/3/0:8:
DS0's Active: 2
DS0's Active High Water Mark: 2
TimeSlot  Type      TotalCalls  TotalDuration
1         pri      0           00:00:00
2         pri      0           00:00:00
3         pri      0           00:00:00
4         pri      0           00:00:00
5         pri      0           00:00:00
6         pri      0           00:00:00
7         pri      0           00:00:00
8         pri      0           00:00:00
9         pri      0           00:00:00
10        pri      0           00:00:00
11        pri      0           00:00:00
12        pri      0           00:00:00
13        pri      0           00:00:00
14        pri      0           00:00:00
15        pri      0           00:00:00
16        pri      0           00:00:00

```

```

17      pri      0      00:00:00
18      pri      0      00:00:00
19      pri      0      00:00:00
20      pri      0      00:00:00
21      pri      0      00:00:00
22      pri      1      00:01:12
23      pri      1      00:01:45
System's DS0's Active High Water Mark: 4

```

関連コマンド

コマンド	説明
clearcontrollercall-counters	ルータのすべての通話統計またはシステムの HWM をクリアします。
コントローラ	コントローラ設定モードに入ります。
showcontrollerst1call-counters	T1 コントローラ上の通話の合計数と通話時間を表示します。

clear csm-statistics modem

モデムまたはモデムのグループのコール スイッチング モジュール (CSM) 統計情報をクリアするには、特権 EXEC モードで **clearcsm-statisticsmodem** コマンドを使用します。

モデムの CSM 統計情報をクリアする[スロット/ポートモデムグループ番号]

構文の説明	スロット/ポート	(オプション) 特定のモデムの場所 (および ID) を識別します。
	モデム-グループ-番号	(オプション) 定義済みのモデム グループを指定します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更
	11.3NA	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 特定のモデムまたはモデムのグループの CSM 統計情報をクリアするには、**clearcsm-statisticsmodem** コマンドを使用します。 *slot/port* 引数が指定されている場合は、識別されたモデムを使用した通話の CSM コール統計がクリアされます。 モデム グループ番号を指定すると、そのグループに関連付けられたモデムを使用した通話の CSM 通話統計がクリアされます。 引数を指定しない場合は、すべてのモデムの CSM 通話統計がすべてクリアされます。

例 次の例では、モデムグループ2に関連付けられたモデムに着信する通話の CSM 通話統計をクリアしています。

```
Router# clear csm-statistics modem 2
```

関連コマンド	コマンド	説明
	clearcsm-statisticsvoice	特定の DSP チャネルまたはすべての DSP チャネルの CSM 統計をクリアします。

clear csm-statistics voice

特定のチャンネルまたはすべてのデジタル信号プロセッサ（DSP）チャンネルのコールスイッチングモジュール（CSM）統計情報をクリアするには、特権 EXEC モードで **clearcsm-statisticsvoice** コマンドを使用します。

clear csm-statistics voice[スロット/dspm/dsp/dsp-channel]

構文の説明

<i>slot/dspm/dsp/dsp-channel</i>	(オプション) 特定の DSP チャンネルの場所を識別します。
----------------------------------	---------------------------------

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

特権 EXECモード

コマンド履歴

リリース	変更
11.3NA	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

特定の DSP チャンネルの CSM 統計をクリアするには、**clearcsm-statisticsvoice** コマンドを使用します。 *slot/dspm/dsp/dsp-channel* 引数が指定されている場合、識別された DSP チャンネルを使用するコールの CSM コール統計がクリアされます。引数を指定しない場合は、すべての DSP チャンネルのすべての CSM コール統計がクリアされます。

例

次の例では、すべての DSP チャンネルに着信するコールの CSM コール統計をクリアします。

```
Router#clear csm-statistics voice
```

関連コマンド

コマンド	説明
クリア csm-統計 モデム	モデムまたはモデムのグループの CSM 統計をクリアします。

clear h323 gatekeeper call

特定のコールまたは特定のゲートキーパーでアクティブなすべてのコールを強制的に切断するには、特権 EXEC モードで **clearh323gatekeepercall** コマンドを使用します。

clearh323gatekeepercall {すべて | ローカルコール ID ローカルコール ID}

構文の説明	すべて	現在このゲートキーパーに関連付けられているすべてのアクティブな通話を強制的に切断します。
	ローカル-コール ID	このゲートキーパーに関連付けられた単一のアクティブな通話を強制的に切断します。
	ローカルコール ID	切断する通話を識別するローカル通話識別番号 (CallID) を指定します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(5)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco MC3810 で導入されました。
	12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に実装されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合され、Cisco AS5300 に実装されました。このリリースには、Cisco AS5350 および Cisco AS5400 のサポートは含まれていません。
	12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。

使用上のガイドライン ゲートキーパー上のすべてのアクティブな通話ではなく、特定の通話を強制的に切断する場合は、CallID 番号を使用してその特定の通話を識別します。 **showgatekeepercalls** コマンドを使用すると、特定の通話のローカル CallID 番号を見つけることができます。ID 番号は LocalCallID 列に表示されます。

例 次の例は、ゲートキーパー上のアクティブな通話が強制的に切断されていることを示しています。アクティブコールのローカル ID 番号は 12-3339 です。

```
Router# clear h323 gatekeeper call local-callid 12-3339
```

次の例は、ゲートキーパー上のすべてのアクティブな通話が強制的に切断されることを示しています。

```
Router# clear h323 gatekeeper call all
```

次のサンプル出力は、**showgatekeepercalls** コマンドからの出力で、コールID が 12-3339 である特定のアクティブコールに関する情報を示しています。

```
Router# show gatekeeper calls
```

```
Total number of active calls =1
```

```

Gatekeeper Call Info
=====
LocalCallID          Age (secs)      BW
12-3339              94             768 (Kbps)
Endpt(s): Alias      E.164Addr      CallSignalAddr  Port  RASSignalAddr  Port
src EP: epA          10.0.0.11      1720           10.0.0.11      1700
dst EP: epB2zoneB.com
src PX: pxA          10.0.0.1       1720           10.0.0.11      24999
dst PX: pxB          172.21.139.90  1720           172.21.139.90  24999

```

関連コマンド

コマンド	説明
showgatekeepercalls	ゲートキーパーが認識している進行中の各通話のステータスを表示します。

clear h323 gatekeeper endpoint

エンドポイントを登録解除するには、特権 EXEC モードで **clearh323gatekeeperendpoint** コマンドを使用します。

clearh323gatekeeper エンドポイント {エイリアス **e164** 数字 | エイリアス **h323idname** | すべて | **idnumber** | **ipaddr** アドレス[ポート]}

構文の説明	alias e164digits	ローカル エイリアス テーブルで指定された E.164 英数字アドレス。
	alias h323idname	ローカルエイリアステーブルで指定され、エンドポイントに到達するための代替手段となる H.323 ID 名。
	すべて	すべてのエンドポイント。
	ID 番号	エンドポイントの ID。
	ipaddr address [port]	エンドポイントのコールシグナリング アドレスとポート (オプション)。 <i>port</i> 引数の値が指定されていない場合、デフォルトは 1720 になります。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード 特権 EXECモード

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(11)T	このコマンドは、Cisco 3660 および Cisco MC3810 の 12.2(11)T で導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、ゲートキーパーは指定されたエンドポイントまたはすべてのエンドポイントに登録解除要求 (URQ) メッセージを強制的に送信し、ゲートキーパー登録データベースからエンドポイントを削除します。

ゲートキーパー クラスタ構成の場合、エンドポイントが登録されているゲートキーパーでこのコマンドを入力する必要があります。ゲートキーパー クラスタ内のエンドポイントを見つけるには、**showgatekeeperendpoints** コマンドを使用します。



(注) このコマンドを使用して登録解除されたエンドポイントは、登録解除後に登録要求 (RRQ) をゲートキーパーに送り返すと、復帰できます。

例 次の例は、すべてのエンドポイントを登録解除する方法を示しています。

```
Router# clear h323 gatekeeper endpoint all
```



```
Router# show gatekeeper endpoints
      GATEKEEPER ENDPOINT REGISTRATION
      =====
CallSignalAddr  Port  RASSignalAddr  Port  Zone Name      Type      Flags
-----
Total number of active registrations = 0
```

関連コマンド

コマンド	説明
showgatekeeperendpoints	ゲートキーパー クラスター内のエンドポイントを特定します。

H323 ゲートキーパーの統計情報をクリアする

ゲートキーパーのパフォーマンスに関する統計情報をクリアするには、特権 EXEC モードで **clearh323gatekeeperstats** コマンドを使用します。

clearh323gatekeeperstats

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(5)XM	このコマンドが導入されました。
12.2(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。

使用上のガイドライン

clearh323gatekeeperstats コマンドは、ゲートキーパーのパフォーマンス カウンタをゼロにリセットし、最後にクリアが実行された時刻を記録します。

例

以下は、**showgatekeeperperformancestats** コマンドの出力例です。これは、**clearh323gatekeeperstats** コマンドを入力した後に、カウンタがゼロにリセットされたことを示しています。

```
clear h323 gatekeeper stats
show gatekeeper performance stats
RAS inbound message counters:
Originating ARQ: 0 Terminating ARQ: 0 LRQ: 0
RAS outbound message counters:
ACF: 2 ARJ: 0 LCF: 2 LRJ: 0
ARJ due to overload: 0
LRJ due to overload: 0
Load balancing events: 0
Real endpoints: 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
showgatekeeperperformancestatistics	ゲートキーパーによって承認および拒否された通話の数に関する情報を表示します。

clear h323 gateway

H.323 ゲートウェイ カウンタをクリアするには、特権 EXEC モードで **clearh323gateway** コマンドを使用します。

clearh323gateway [原因コード | **h225** | **ras**]

構文の説明

原因-コード	(オプション) 切断された原因コード カウンタのみをクリアします。
h225	(オプション) H.225 カウンタのみをクリアします。
ラス	(オプション) 登録、許可、およびステータス (RAS) カウンタのみをクリアします。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(4)T	このコマンドは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 を除くすべての Cisco H.323 プラットフォームに導入されました。

使用上のガイドライン

すべての H.323 カウンタをクリアするには、オプションのキーワードを指定せずに **clearh323gateway** コマンドを使用します。 **clearh323gateway** コマンドを使用した後、それぞれのカウンタはゼロに設定されます。

例

次の Cisco 3640 ルータの例では、キーワードなしで **clearh323gateway** コマンドを使用して、すべての H.323 カウンタをクリアします。

```
Router# clear h323 gateway
All H.323 stats cleared at 01:54:38
```

Cisco 3640 ルータの次の例では、 **clearh323gateway** コマンドを **cause-codes** キーワードとともに使用して、切断原因コード カウンタをクリアします。

```
Router# clear h323 gateway cause-codes
Cause code stats cleared at 01:54:08
```

Cisco 3640 ルータの次の例では、 **clearh323gateway** コマンドを **h225** キーワードとともに使用して、H.225 カウンタをクリアします。

```
Router# clear h323 gateway h225
H.225 stats cleared at 01:53:18
```

Cisco 3640 ルータの次の例では、**clearh323gateway** コマンドを **ras** キーワードとともに使用して、RAS カウンタをクリアします。

```
Router# clear h323 gateway ras
RAS stats cleared at 01:53:25
```

関連コマンド

コマンド	説明
debugcch323	H.323 サブシステム内のさまざまなコンポーネントのデバッグ出力を提供します。
showh323gateway	送受信された H.323 ゲートウェイ メッセージの統計情報と、H.323 コールが切断された理由を表示します。

clear http client statistics

showhttpclientstatistics コマンドの出力に表示される、HTTP サーバとクライアント間の通信に関する情報を収集するすべてのカウンタをゼロにリセットするには、ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **clearhttpclientstatistics** コマンドを使用します。

clearhttpclientstatistics

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンドモード

ユーザ EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(15)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

カウンタで収集されたデータを表示するには、**showhttpclientstatistics** コマンドを使用します。これらのカウンタは **clearhttpclientstatistics** コマンドでゼロにリセットされます。

例

次の例では、カウンタをゼロにリセットします。

```
Router# clear http client statistics
```

関連コマンド

コマンド	説明
showhttpclientstatistics	HTTP サーバとクライアント間の通信に関する情報を表示します。

clear interface cable-modem

指定されたケーブル モデム ドーター カードのコントローラをリセットするには、特権 EXEC モードで **clearinterfacecable-modem** コマンドを使用します。 このコマンドには **no** バージョンがありません。

clear インターフェイスケーブルモデム

構文の説明	このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。				
コマンド モード	特権 EXEC (#)				
コマンド履歴	<table> <tr> <td>リリース</td><td>変更</td></tr> <tr> <td>12.4(11)T</td><td>このコマンドが導入されました。</td></tr> </table>	リリース	変更	12.4(11)T	このコマンドが導入されました。
リリース	変更				
12.4(11)T	このコマンドが導入されました。				

例

次の例は、**clearinterfacecable-modem** コマンドを使用して、選択したスロットとポートのインターフェイスをクリアする方法を示しています。

```
Router# clear interface cable-modem
*May 17 16:36:57.344: %CABLE_MODEM_HWIC-6-RESET: Interface Cable-Modem0/2/0 has been
reset: clear command
*May 17 16:37:05.348: %LINK-3-UPDOWN: Interface Cable-Modem0/2/0, changed state to down
*May 17 16:37:06.348: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface Cable-Modem0/2/0,
changed state to down
*May 17 16:37:19.740: %LINK-3-UPDOWN: Interface Cable-Modem0/2/0, changed state to up
*May 17 16:37:27.996: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface Cable-Modem0/2/0,
changed state to up
```

関連コマンド	<table> <tr> <th>コマンド</th><th>説明</th></tr> <tr> <td>showinterfaces</td><td>設定されているすべてのインターフェースの統計情報を表示します。</td></tr> <tr> <td>showinterfacescable-modem</td><td>ポートに設定されているすべてのインターフェースの統計情報を表示します。</td></tr> </table>	コマンド	説明	showinterfaces	設定されているすべてのインターフェースの統計情報を表示します。	showinterfacescable-modem	ポートに設定されているすべてのインターフェースの統計情報を表示します。
コマンド	説明						
showinterfaces	設定されているすべてのインターフェースの統計情報を表示します。						
showinterfacescable-modem	ポートに設定されているすべてのインターフェースの統計情報を表示します。						

メディアプロキシセッションの概要履歴をクリアする

CUBE Media Proxy 録画セッションの履歴データをクリアするには、特権 EXEC モードで **clear media-proxy sessions summary history** コマンドを使用します。

clearメディアプロキシセッション概要履歴

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
IOS XE 16.10.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

コマンド **clear media-proxy sessions summary history** を使用して、コマンド **show media-proxy sessions summary history** で表示される CUBE Media Proxy 録画セッションの履歴データをクリアします。

例

Device# **clear media-proxy sessions summary history**

関連コマンド

コマンド	説明
メディアプロキシセッションの概要履歴を表示する	完了した CUBE MediaProxy SIP 録音セッションの概要を表示します。

clear mgcp src-stats

MGCP ゲートウェイ上の Media Gateway Control Protocol (MGCP) システム リソース チェック (SRC) コールアドミッション制御 (CAC) 用に収集された統計情報をクリアするには、特権 EXEC モードで **clearmgcpsrc-stats** コマンドを使用します。

clearmgcpsrc-stats

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)XB	このコマンドが導入されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン

clearmgcpsrc-stats コマンドを使用して、最新の検査間隔中に収集された SRC CAC 統計情報を保持する MGCP ゲートウェイ バッファをクリアします。

例

次の例では、MGCP VoIP SRC CAC 統計をクリアします。

```
Router# clear mgcp src-stats
```

関連コマンド

コマンド	説明
showmgcpstatistics	受信および送信されたネットワーク メッセージに関する MGCP 統計を表示します。

clear mgcp statistics

Media Gateway Control Protocol (MGCP) 統計カウンタをリセットするには、特権 EXEC モードで **clearmgcpstatistics** コマンドを使用します。

clearmgcpstatistics

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(1)T	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.1(3)T	このコマンドは、Cisco 3660、Cisco UBR924、および Cisco 2600 シリーズに実装されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。

例

以下は、MGCP 統計カウンタがリセットされる例を示しています。

```
Router# clear mgcp statistics
```

関連コマンド

コマンド	説明
mgcp	MGCP プロセスを開始します。
showmgcp統計	受信パケットと送信パケットの統計を表示します。

MRCP クライアント統計をクリアする

すべてのメディア リソース コントロール プロトコル (MRCP) 統計情報をクリアするには、特権 EXEC モードで **clearmrpcclientstatistics** コマンドを使用します。

clearmrpcclientstatistics {すべて | ホスト名 {hostnameip-address}}

構文の説明	すべて	すべてのホストの累積 MRCP セッション統計を消去します。
	ホスト名	指定されたホストの累積 MRCP セッション統計を消去します。
	ホスト名	MRCP サーバのホスト名。形式はホスト名のみ、または ホスト名:ポートを使用します。
	ip-address	MRCP サーバの IP アドレス。

コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(11)T	このコマンドは、Cisco 3640、Cisco 3660、Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 で導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、すべての MRCP セッション統計を 0 にリセットします。現在の統計を表示するには、**showmrpcclientstatisticshostname** コマンドを使用します。

例 次の例では、「asr_server」というホストの統計をリセットします。

```
Router# clear mrpc client statistics hostname asr_server
```

関連コマンド	コマンド	説明
	showmrpcclientstatisticshostname	MRCP セッションに関する累積情報を表示します。

clear rlm group

すべての Redundant Link Manager (RLM) タイムスタンプをゼロにリセットするには、特権 EXEC モードで **clearrlmgroup** コマンドを使用します。

clearrlmグループ[グループ番号][リンク | 統計]

構文の説明

グループ番号	(オプション) RLM グループ番号。範囲は 0 ～ 255 です。デフォルト値はありません。
リンク	(オプション) RLM グループ リンクを指定します。
statistics	(オプション) RLM グループの統計を指定します。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(7)	このコマンドが導入されました。
15.0(1)M	このコマンドはCisco IOS Release 15.0(1)M より前のリリースで変更されました。統計 キーワードが追加されました。

例

次の例では、RLM グループ 1 のタイムスタンプをリセットします。

```
Router# clear rlm group 1 link
!
02:48:17: rlm 1: [State_Up, rx ACTIVE_LINK_BROKEN] over link [10.1.1.1(Loopback1),
10.1.4.1]
02:48:17: rlm 1: link [10.1.1.2(Loopback2), 10.1.4.2] requests activation
02:48:17: rlm 1: link [10.1.1.1(Loopback1), 10.1.4.1] is deactivated
02:48:17: rlm 1: [State_Recover, rx LINK_BROKEN] over link [10.1.1.2(Loopback2), 10.1.4.2]
02:48:17: rlm 1: link [10.1.1.1(Loopback1), 10.1.4.1] = socket[10.1.1.1, 10.1.4.1]
02:48:17: rlm 1: [State_Recover, rx USER_SOCKET_OPENED] over link [10.1.1.1(Loopback1),
10.1.4.1] for user RLM_MGR
02:48:17: rlm 1: link [10.1.1.1(Loopback1), 10.1.4.1] is opened
02:48:17: rlm 1: link [10.1.1.2(Loopback2), 10.1.4.2] = socket[10.1.1.2, 10.1.4.2]
02:48:17: rlm 1: [State_Recover, rx USER_SOCKET_OPENED] over link [10.1.1.2(Loopback2),
10.1.4.2] for user RLM_MGR
02:48:17: rlm 1: link [10.1.1.2(Loopback2), 10.1.4.2] is opened
02:48:17: rlm 1: link [10.1.1.1(Loopback1), 10.1.5.1] = socket[10.1.1.1, 10.1.5.1]
02:48:17: rlm 1: [State_Recover, rx USER_SOCKET_OPENED] over link [10.1.1.1(Loopback1),
10.1.5.1] for user RLM_MGR
02:48:17: rlm 1: link [10.1.1.1(Loopback1), 10.1.5.1] is opened
02:48:17: rlm 1: link [10.1.1.2(Loopback2), 10.1.5.2] = socket[10.1.1.2, 10.1.5.2]
02:48:17: rlm 1: [State_Recover, rx USER_SOCKET_OPENED] over link [10.1.1.2(Loopback2),
10.1.5.2] for user RLM_MGR
02:48:17: rlm 1: link [10.1.1.2(Loopback2), 10.1.5.2] is opened
02:48:17: rlm 1: [State_Recover, rx LINK_OPENED] over link [10.1.1.1(Loopback1), 10.1.4.1]
```

```
02:48:17: rlm 1: link [10.1.1.1(Loopback1), 10.1.4.1] requests activation
02:48:17: rlm 1: [State_Recover, rx LINK_OPENED] over link [10.1.1.2(Loopback2), 10.1.4.2]
02:48:17: rlm 1: [State_Recover, rx START_ACK] over link [10.1.1.1(Loopback1), 10.1.4.1]
02:48:17: rlm 1: link [10.1.1.1(Loopback1), 10.1.4.1] is activated
```

関連コマンド

コマンド	説明
clearinterface	インターフェイスのハードウェアロジックをリセットします。
インターフェイス	サーバの IP アドレスを定義し、インターフェイスタイプを設定し、インターフェイス設定モードを開始します。
リンク(RLM)	リンクの優先度を指定します。
プロトコルrlmポート	RLM グループ全体の基本 RLM 接続のポート番号を再構成します。
キープアライブを再試行する	リンクのダウンが宣言される一定時間前に、連続してキープアライブが失敗することを許可します。
サーバ(RLM)	サーバの IP アドレスを定義します。
showrlmgroupstatistics	RLM グループのネットワーク遅延を表示します。
showrlmgroupstatus	RLM グループのステータスを表示します。
showrlmgrouptimer	現在の RLM グループタイマー値を表示します。
タイマー	タイムアウト値のデフォルト設定を上書きします。

rpms-proc カウンターをクリアする

レッグ3の認証、許可、アカウントिंग（AAA）事前認証要求、成功、および拒否の数に関するリソース ポリシー管理システム（RPMS）統計カウンタをクリアするには、特権 EXEC モードで **clearrpms-proccounters** コマンドを使用します。

クリアrpms-procカウンタ

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(11)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、通話区間 3 の AAA 事前認証要求、成功、拒否の統計カウンタをクリアします。

```
Router# clear rpms-proc counters
```

関連コマンド

コマンド	説明
showrpms-proccounters	レッグ3 AAA 事前認証要求の数、成功数、拒否数の統計を表示します。

rudpv0 統計をクリアする

信頼性の高いユーザ データグラム プロトコル (RUDP) 統計を追跡するカウンタをクリアするには、特権 EXEC モードで **clearrudpv0statistics** コマンドを入力します。

clearrudpv0statistics

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

統計情報が蓄積されます。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(7)XR	このコマンドが導入されました。
12.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合されました。

例

次の例は、Cisco 2611 で RUDP 統計をクリアする方法を示しています。

```
Router(config)#clear rudpv0 statistics
```

関連コマンド

コマンド	説明
showrudpv0failures	失敗した接続とその理由に関する RUDP 情報を表示します。
showrudpv0statistics	送信、受信されたパケットの数などに関する RUDP 情報を表示します。

rudpv1 統計をクリアする

信頼性の高いユーザ データグラム プロトコル (RUDP) 統計を追跡するカウンタをクリアするには、特権 EXEC モードで **clearrudpv1statistics** コマンドを使用します。

clearrudpv1statistics

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

統計情報が蓄積されます。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(1)T	このコマンドが導入されました。
12.2(2)T	このコマンドは Cisco 7200 に実装されました。
12.2(4)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco MC3810 に実装されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(8)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合され、Cisco IAD2420 シリーズに実装されました。
12.2(11)T	このコマンドは、このリリースで Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850 に実装されました。

例

次の例では、使用可能なすべてのセッショングループのすべての RUDP 統計をクリアします。

```
Router# clear rudpv1 statistics
```

関連コマンド

コマンド	説明
デバッグ rudpv1	RUDP のデバッグ情報を表示します。
showrudpv1	RUDP 情報を表示します。

clear sccp server statistics

show sccp server statistics コマンドで表示されるカウントをクリアするには、特権 EXEC モードで **clear sccp server statistics** コマンドを使用します。

clearSCCPserverstatistics

構文の説明 このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(15)XY	このコマンドが導入されました。
	15.0(1)M	このコマンドは、Cisco IOS リリース 15.0(1)M より前のリリースに統合されました。

例 次の例は、Skinny Client Control Protocol (SCCP) サーバの統計カウントをクリアし、その後に **show sccp server statistics** コマンドを使用してカウンタがゼロにリセットされていることを確認する方法を示しています。表示されているとおりであり、フィールドの説明はありません。

```
Router# show sccp server statistics
Failure type          Error count
-----
Send queue enqueue    0
Socket send           0
Msg discarded upon error 0
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show sccp server statistics	SCCP サーバによって送受信された SCCP メッセージの数を表示します。

clear sdspfarm counters

Skinny Client Control Protocol (sdspfarm) に登録されているデジタル信号プロセッサファームのサーバーのカウンタをゼロにリセットするには、**servershowsdspfarmmessagestatistics** コマンドで表示されるカウンタを、特権 EXEC モードで **clearsdspfarmcounters** コマンドを使用してリセットします。

clearsdspfarmcounters

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(15)XY	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、sdspfarm カウンタがクリアされ、**showsdspfarmsessionsstate** コマンドでカウンタがゼロにリセットされたことを確認する方法を示しています。

```
Router# clear sdspfarm counters
Router# show sdspfarm sessions state
```

```
Call state      Num of sessions
-----
IDLE            1022
ALERTING        0
SEIZE           0
PROGRESS        0
CONNECTED       0
DIGITS          0
BUSY            0
RINGING         0
ERROR           0
HOLD            0
END             0
STOP            0
START           2
RESTART         0
UNKNOWN         0
DELAYED-SMT     0
```

表示されているとおりであり、フィールドの説明はありません。

関連コマンド

コマンド	説明
showsdspfarmmessagestatistics	SCCP サーバによって送受信された SCCP メッセージの数を表示します。

コマンド	説明
showsdsfarmsessionsstate	各 SCCP コール状態のセッション数を表示します。

SGCP 統計をクリアする

すべての Simple Gateway Control Protocol (SGCP) 統計情報をクリアするには、特権 EXEC モードで **clearsgcpstatistics** コマンドを使用します。

clearsgcpstatistics

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(5)T	このコマンドは、Cisco AS5300 のプライベート リリースでのみ導入され、一般には利用できませんでした。
12.0(7)XK	このコマンドは、一般には利用できないプライベート リリースで Cisco MC3810 および Cisco 3600 シリーズ (Cisco 3620 を除く) に実装されました。
12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(2)T に統合されました。

例

次の例では、すべての SGCP 統計がクリアされることが示されています。

```
Router# clear sgcp statistics
```

関連コマンド

コマンド	説明
showsgcpstatistics	SGCP パケット数のグローバル統計を表示します。

SIP-UA 登録をクリアする

SIP ユーザ エージェントの登録レコードをクリアするには、特権 EXEC モードで **clearsip-uaregistration** コマンドを使用します。

clearsip-ua登録パススルー {**all** | コール IDコール ID | **dial-peer**ダイヤルピア | **dndn**}

構文の説明	パススルー	SIP 登録パススルーステータスをクリアします
	all	すべてのユーザエージェントの SIP 登録レコードをクリアします
	コール IDコール ID	指定されたコール ID を持つユーザエージェントの SIP 登録レコードをクリアします。
	ダイヤルピアダイヤルピア	指定されたダイヤルピアのユーザエージェントの SIP 登録レコードをクリアします
	dndn	指定されたディレクトリ番号のユーザエージェントの SIP 登録レコードをクリアします。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更
	IOS XE Fuji リリース 16.8.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、コール ID、ダイヤルピア、およびディレクトリ番号に基づいて SIP ユーザ エージェントの登録レコードをクリアします。キーワード「**all**」を使用すると、このコマンドはすべての SIP ユーザ エージェントの登録レコードをクリアします。

例

次の例では、call-id 2147483647 の SIP ユーザ エージェントの登録レコードをクリアします。

Router# **clear sip-ua registration passthrough call-id 2147483647**

関連コマンド	clear sip ua-statistics	すべての SIP 統計カウンタをクリアします。
	SIP-UA 登録パススルーステータスを表示する	SIP ユーザ エージェントのパススルー ステータス情報を表示します。

SIP-UA 統計をクリアする

セッション開始プロトコル (SIP) ユーザエージェント (UA) 統計カウンタをリセットするには、特権 EXEC モードで **clear sip-ua statistics** コマンドを使用します。

clearsip-uastatistics

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(13)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

clear sip-ua statistics コマンドを使用して、**show sip-ua statistics** コマンドによって表示されるすべての SIP 統計カウンタをクリアします。

例

次の例は、すべての SIP-UA 統計がクリアされることを示しています。

```
Router# clear sip-ua statistics
```

関連コマンド

コマンド	説明
show sip-ua statistics	応答、トラフィック、および再試行 SIP 統計を表示します。

clear sip-ua tcp connection

セッション開始プロトコル (SIP) TCP 接続をクリアするには、特権 EXEC モードで **clearsip-uatcpconnection** コマンドを使用します。

clear sip-ua tcp connection {id接続 ID[ターゲット IPv4:アドレス:ポート | ID接続 ID]} ターゲット IPv4:アドレス:ポート

構文の説明	id接続 ID	SIP TCP プロセスで閉じる必要がある接続の ID を指定します。 <i>connection-id</i> 引数は接続 ID を表します。値の範囲は 1 ～ 2048 です。
	ターゲット ipv4:アドレス:ポート	SIP トランスポート層で閉じる必要がある接続のターゲットアドレスを指定します。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
12.4(6)T	このコマンドは、 clearsip-ua コマンドに置き換えられました。

使用上のガイドライン

clearsip-uatcpconnection コマンドを不適切に使用すると、誤った通話動作、不適切な接続の使用、通話の失敗につながる可能性があります。

例

上位トランスポート層でのみ接続エントリをクリアするには、ターゲット IP アドレスとポートを割り当てます。

```
Router# clear sip-ua tcp connection target ipv4:172.18.194.183:5060
```

下位の TCP またはユーザ データグラム プロトコル (UDP) 層の接続エントリのみをクリアするには、次のように接続を指定します。

```
Router# clear sip-ua tcp connection id 1
```

ターゲット 172.18.194.183、ポート 5060 への有効な接続を完全にクリアするには、**showsip-uconnections** コマンドの次の出力例を検討してください。

```
Router# show sip-ua connections tcp detail
```

```
Total active connections : 1
No. of send failures : 0
No. of remote closures : 0
No. of conn. failures : 0
No. of inactive conn. ageouts : 0
```

```

Max. tcp send msg queue size of 1, recorded for 172.18.194.183:5060
-----Printing Detailed Connection Report-----
Note:
** Tuples with no matching socket entry
- Do 'clear sip <tcp/udp> conn t ipv4:<addr>:<port>'
to overcome this error condition
++ Tuples with mismatched address/port entry
- Do 'clear sip <tcp/udp> conn t ipv4:<addr>:<port> id <connid>'
to overcome this error condition
Remote-Agent:172.18.194.183, Connections-Count:1
Remote-Port Conn-Id Conn-State WriteQ-Size
=====
5060 1 Established 0

```

次に、**clearsip-uatcpconnection** コマンドを実行します。

```
Router# clear sip-ua tcp connection id 1 target ipv4:172.18.194.183:5060
```

```

Purging the entry from sip tcp process
Purging the entry from reusable global connection table

```

結果として、**clearsip-uatcpconnection** コマンドを入力すると、すべての接続がクリアされます。

```

Router# show sip-ua connections tcp detail
Total active connections : 0
No. of send failures : 0
No. of remote closures : 0
No. of conn. failures : 0
No. of inactive conn. ageouts : 0
Max. tcp send msg queue size of 1, recorded for 172.18.194.183:5060
-----Printing Detailed Connection Report-----
Note:
** Tuples with no matching socket entry
- Do 'clear sip <tcp/udp> conn t ipv4:<addr>:<port>'
to overcome this error condition
++ Tuples with mismatched address/port entry
- Do 'clear sip <tcp/udp> conn t ipv4:<addr>:<port> id <connid>'
to overcome this error condition
Remote-Agent:172.18.194.183, Connections-Count:0

```

関連コマンド

コマンド	説明
clearsip-uudpconnection	SIP UDP 接続をクリアします。
showsip-uconnections	SIP UA トランスポート接続テーブルを表示します。
タイマー接続エージング	SIP UA が TCP および UDP 接続を期限切れにするまでの時間を設定します。

clear sip-ua tcp tls connection

セッション開始プロトコル (SIP) TCP 接続をクリアするには、特権 EXEC モードで **clearsip-uatcptlsconnection** コマンドを使用します。

clear sip-ua tcp tls connection {id接続 ID[ターゲット IPv4:アドレス:ポート | id接続 ID]} ターゲット IPv4:アドレス:ポート

構文の説明	id接続 ID	SIP TCP プロセスで閉じる必要がある接続の ID を指定します。 <i>connection-id</i> 引数は接続 ID を表します。値の範囲は 1 ～ 2048 です。
	ターゲットipv4:アドレス:ポート	SIP トランスポート層で閉じる必要がある接続のターゲットアドレスを指定します。

コマンドモード

特権 EXECモード

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(6)T	このコマンドは、 clearsip-ua コマンドに置き換えられました。

使用上のガイドライン

clearsip-uatcptlsconnection コマンドを不適切に使用すると、誤った通話動作、不適切な接続の使用、通話の失敗につながる可能性があります。

例

上位トランスポート層でのみ接続エントリをクリアするには、ターゲット IP アドレスとポートを割り当てます。

```
Router# clear sip-ua tcp tls connection target ipv4:172.18.194.183:5060
```

下位の TCP またはユーザ データグラム プロトコル (UDP) 層の接続エントリのみをクリアするには、次のように接続を指定します。

```
Router# clear sip-ua tcp tls connection id 1
```

ターゲット 172.18.194.183、ポート 5060 への有効な接続を完全にクリアするには、**showsip-uconnections** コマンドの次の出力例を検討してください。

```
Router# show sip-ua connections tcp tls detail

Total active connections : 1
No. of send failures : 0
No. of remote closures : 0
No. of conn. failures : 0
No. of inactive conn. ageouts : 0
Max. tcp send msg queue size of 1, recorded for 172.18.194.183:5060
-----Printing Detailed Connection Report-----
Note:
```



```

** Tuples with no matching socket entry
- Do 'clear sip <tcp/udp> conn t ipv4:<addr>:<port>'
to overcome this error condition
++ Tuples with mismatched address/port entry
- Do 'clear sip <tcp/udp> conn t ipv4:<addr>:<port> id <connid>'
to overcome this error condition
Remote-Agent:172.18.194.183, Connections-Count:1
Remote-Port Conn-Id Conn-State WriteQ-Size
=====
5060 1 Established 0

```

次に、**clearsip-uatcpconnection** コマンドを実行します。

```
Router# clear sip-ua tcp tls connection id 1 target ipv4:172.18.194.183:5060
```

```

Purging the entry from sip tcp process
Purging the entry from reusable global connection table

```

結果として、**clearsip-uatcpconnection** コマンドを入力すると、すべての接続がクリアされます。

```

Router# show sip-ua connections tcp tls detail
Total active connections : 0
No. of send failures : 0
No. of remote closures : 0
No. of conn. failures : 0
No. of inactive conn. ageouts : 0
Max. tcp send msg queue size of 1, recorded for 172.18.194.183:5060
-----Printing Detailed Connection Report-----
Note:
** Tuples with no matching socket entry
- Do 'clear sip <tcp/udp> conn t ipv4:<addr>:<port>'
to overcome this error condition
++ Tuples with mismatched address/port entry
- Do 'clear sip <tcp/udp> conn t ipv4:<addr>:<port> id <connid>'
to overcome this error condition
Remote-Agent:172.18.194.183, Connections-Count:0

```

関連コマンド

コマンド	説明
clearsip-uatcpconnection	SIP UDP 接続をクリアします。
showsip-uatcpconnections	SIP UA トランスポート接続テーブルを表示します。
タイマー接続エージング	SIP UA が TCP および UDP 接続を期限切れにするまでの時間を設定します。

clear sip-ua udp connection

SIP UDP 接続をクリアするには、特権 EXEC モードで **clearsip-uaudpconnection** コマンドを使用します。

clearsip-uaudpconnection {id値[ターゲットip-address] | [id値]ターゲットip-address}

構文の説明

id値	SIP UDP プロセスで閉じる必要がある接続の ID を指定します。 <i>value</i> 引数は接続 ID の値を表します。 値の範囲は 1 ～ 2048 です。
ターゲットIP-アドレス	SIP トランスポート層で閉じる必要がある接続のターゲットアドレスを指定します。 <i>ip-address</i> 引数は、 ipv4:address:port の形式のターゲットアドレスです。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
12.4(6)T	このコマンドは、 clearsip-ua コマンドに置き換えられました。

使用上のガイドライン

問題や影響を理解せずに **clearsip-uaudpconnection** コマンドを不適切に使用すると、誤った通話動作、不適切な接続の使用、通話の失敗につながる可能性があります。

例

上位トランスポート層でのみ接続エントリを消去するには、ターゲット IP アドレスとポートを割り当てます。

```
Router# clear sip-ua udp connection target ipv4:172.18.194.183:5060
```

下位の TCP/UDP 層でのみ接続エントリを消去するには、接続 ID を割り当てます。

```
Router# clear sip-ua udp connection id 1
```



(注) 問題や影響を理解せずに **clear** コマンドを不適切に使用すると、誤った呼び出し動作、不適切な接続の使用、呼び出しの失敗につながる可能性があります。

ターゲット 172.18.194.183、ポート 5060 への有効な接続を完全に消去するには、次の例を検討してください。

clearsip-uaudpconnection コマンドを実行する前に、**showsip-uconnections** コマンドを実行すると、次の出力が得られました。

```

Router# show sip-ua connections udp detail

Total active connections : 1
No. of send failures : 0
No. of remote closures : 0
No. of conn. failures : 0
No. of inactive conn. ageouts : 0
Max. udp send msg queue size of 1, recorded for 172.18.194.183:5060
-----Printing Detailed Connection Report-----
Note:
** Tuples with no matching socket entry
- Do 'clear sip <tcp/udp> conn t ipv4:<addr>:<port>'
to overcome this error condition
++ Tuples with mismatched address/port entry
- Do 'clear sip <tcp/udp> conn t ipv4:<addr>:<port> id <connid>'
to overcome this error condition
Remote-Agent:172.18.194.183, Connections-Count:1
Remote-Port Conn-Id Conn-State WriteQ-Size
=====
5060 1 Established 0

```

次に、**clearsip-uaudpconnection** コマンドを実行します。

```

Router# clear sip-ua udp connection id 1 target ipv4:172.18.194.183:5060

Purging the entry from sip udp process
Purging the entry from reusable global connection table

```

最終結果として、**clearsip-uaudpconnection** コマンドを実行すると、すべての接続がクリアされます。

```

Router# show sip-ua connections udp detail

Total active connections : 0
No. of send failures : 0
No. of remote closures : 0
No. of conn. failures : 0
No. of inactive conn. ageouts : 0
Max. udp send msg queue size of 1, recorded for 172.18.194.183:5060
-----Printing Detailed Connection Report-----
Note:
** Tuples with no matching socket entry
- Do 'clear sip <tcp/udp> conn t ipv4:<addr>:<port>'
to overcome this error condition
++ Tuples with mismatched address/port entry
- Do 'clear sip <tcp/udp> conn t ipv4:<addr>:<port> id <connid>'
to overcome this error condition
Remote-Agent:172.18.194.183, Connections-Count:0

```

関連コマンド

コマンド	説明
clearsip-uatcpconnection	SIP TCP 接続をクリアします。
showsip-uconnections	SIP UA トランスポート接続を表示します。
timersconnectionaging	SIP UA が TCP および UDP 接続を期限切れにするまでの時間を設定します。

clear ss7 sm-stats

セッションマネージャの統計情報を追跡するカウンタをクリアするには、特権 EXEC モードで **clearss7sm-stats** コマンドを使用します。

clearss7sm-stats[セッションセット *number*]

構文の説明	セッションセット	(オプション) セッション セットを指定します。
	<i>number</i>	(オプション) セッション セット番号を指定します。 値の範囲は 0 ～ 3 です。

コマンド デフォルト 統計情報が蓄積されます。

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(7)XR	このコマンドが導入されました。
	12.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合されました。
	15.0(1)M	このコマンドはCisco IOS Release 15.0(1)M より前のリリースで変更されました。 session-set キーワードと <i>number</i> 引数が追加されました。

例 次の例は、セッション マネージャの統計をクリアする方法を示しています。

Router# **clear ss7 sm-stats session-set 2**

関連コマンド	コマンド	説明
	showss7smstats	キューに入れられたパケット数、受信されたパケット数などに関するセッション マネージャ情報を表示します。

clear statistics dial-peer voice

ダイヤルピアに保存されている音声通話カウンタと最近の通話詳細をリセットするには、特権 EXEC モードで **clearstatisticsdial-peervoice** コマンドを使用します。

clear statistics dial-peer voice {tag | ビジートリガーカウンタ}

構文の説明	タグ	(オプション) 特定のダイヤルピアの識別タグ番号。有効なエントリーは、特定のダイヤルピアを識別する任意の整数です。範囲は 1 から 2147483647 です。
	ビジートリガーカウンタ	(オプション) ダイヤルピア ビジー トリガー コール カウンタをクリアするように指定します。

コマンド デフォルト tag 引数を使用しない場合、設定されているすべての音声ダイヤルピアのカウンタがクリアされます。

コマンド モード
特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(8)T	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
	15.0(1)M	このコマンドはCisco IOS Release 15.0(1)M より前のリリースで変更されました。 busy-trigger-counter キーワードが追加されました。
	Cisco IOS XE リリース 2.1	このコマンドは、Cisco IOS XE リリース 2.1 に統合され、Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータに実装されました。

使用上のガイドライン **clearstatisticsdial-peervoice** コマンドは、通話に関する次の統計情報をリセットします。

- 統計を最後にクリアしてからの経過時間
- 接続時間
- 請求単位
- 受け付けた通話
- 通話拒否
- 成功した通話
- 通話失敗

- 不完全な通話
- 最後の切断原因
- 最後の切断メッセージ
- 最終セットアップ時間

例

次の例は、タグ 1234 を使用して音声ダイヤルピアの統計情報をクリアする方法を示しています。

```
Router# clear statistics dial-peer voice 1234
Clear voice call statistics stored in this voice dial-peer [confirm]y
```

次の例は、設定されているすべての音声ダイヤルピアの統計情報をクリアする方法を示しています。

```
Router# clear statistics dial-peer voice
Clear voice call statistics stored in all voice dial-peers [confirm]y
```

関連コマンド

コマンド	説明
dial-peervoice	ダイヤルピア コンフィギュレーション モードを開始し、音声カプセル化の方法を指定します。
showcallhistoryvoicerecord	通話履歴テーブルに CDR イベントを表示します。
showdial-peervoice	ダイヤルピアの構成情報を表示します。

clear stcapp statistics

SCCPテレフォニー制御アプリケーション（STCAPP）統計情報をクリアするには、特権EXECモードで **clearstcappstatistics** コマンドを使用します。

clearstcappstatistics {すべて | portスロット番号}

構文の説明

すべて	すべての STCAPP 統計をクリアします。
ポート	ポートレベルの STCAPP 統計をクリアします。
スロット番号	音声インターフェースのスロット番号。値の範囲は 0 ～ 2147483647 です。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
15.0(1)M	このコマンドはCisco IOS Release 15.0(1)M より前のリリースで導入しました。

例

次の例は、すべての STCAPP 統計をクリアする方法を示しています。

```
Router# clear stcapp statistics all
```

関連コマンド

コマンド	説明
stcapp	STCAPP を有効にします。

clear subscription

すべてのアクティブなサブスクリプションまたは特定のサブスクリプションをクリアするには、特権 EXEC モードで **clearsubscription** コマンドを使用します。

clearサブスクリプション {すべて | セッション IDセッション ID | statistics}

構文の説明	すべて	すべてのアクティブなサブスクリプション。
	セッション IDセッション ID	クリアするサブスクリプションセッション。
	statistics	グローバルサブスクリプション統計とすべてのサブスクリプション履歴レコード。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 特定のサブスクリプションをキャンセルするには、*session-id* 引数を使用します。セッション ID は、**showsubscriptions** コマンドの出力に表示されます。このコマンドを使用すると、サブスクリプションに関連付けられたアプリケーションは **ev_subscribe_cleanup** イベントを受信します。このイベントを受信すると、スクリプトはサブスクリプションを閉じます。

例 次の例は、グローバル統計と履歴レコードがクリアされる様子を示しています。

```
Router# clear subscription statistics
```

関連コマンド	コマンド	説明
	retrysubscribe	SUBSCRIBE メッセージの再試行回数を設定します。
	showsubscriptionsip	アクティブな SIP サブスクリプションを表示します。
	subscriptionmaximum	ゲートウェイによって受け入れられる、または発信される未処理サブスクリプションの最大数を指定します。

clear tgrep counters

Telephony Gateway Registration Protocol (TGREP) カウンタをクリアするには、特権 EXEC モードで **cleartgrepcounters** コマンドを使用します。

クリア **tgrep** カウンター { * | キャリア文字列 | **CSR** | ダイアルピア *tag* | トランクグループラベル } [**CSR**] [**ac**]

構文の説明

*	すべての TGREP カウンターをクリアします。
キャリア	使用可能な回線カウンタをクリアします。
文字列	キャリア ID。
dial-peer	dial-peer をクリアします。
タグ	ダイアルピアタグです。値の範囲は 1 ～ 2147483647 です。
トランクグループラベル	トランク グループのカウンタをクリアします。
csr	(オプション) 通話成功率カウンタをクリアします。
ac	(オプション) 使用可能なすべての回線カウンタをクリアします。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
15.0(1)M	このコマンドはCisco IOS Release 15.0(1)M より前のリリースで導入しました。

例

次の例は、すべての tgrep カウンタ情報をクリアする方法を示します。

```
Router# clear tgrep counters *
```

関連コマンド

コマンド	説明
cleartgrepneighbor	すべてのネイバーセッションをクリアします。

clear tgrep neighbor

Telephony Gateway Registration Protocol (TGREP) ネイバーセッションをクリアするには、特権 EXEC モードで **cleartgrepneighbor** コマンドを使用します。

クリア **tgrepneighbor** *{*ip-address}*

構文の説明	*	すべてのネイバーセッションをクリアします。
	IP アドレス	ネイバーセッションの IP アドレス。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更
	15.0(1)M	このコマンドはCisco IOS Release 15.0(1)M より前のリリースで導入しました。

例

次の例は、ネイバーセッションをクリアする方法を示しています。

```
Router# clear tgrep neighbor *
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cleartgrepcounters	TGREP カウンターをクリアします。

clear voice accounting method

ゲートウェイ上の特定のアカウントリング方式の VoIP AAA アカウンティング統計情報をクリアするには、特権 EXEC モードで **clearvoiceaccountingmethod** コマンドを使用します。

clear 音声 accounting メソッド *method-list-name*

構文の説明

メソッドリスト名	メソッドリストの名前。
----------	-------------

コマンドモード

特権 EXECモード

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、メソッドリスト「h323」のアカウントリング統計をクリアします。

```
Router# clear voice accounting method h323
```

関連コマンド

コマンド	説明
音声統計タイプ CSR	シグナリングおよび VoIP AAA アカウンティング統計の収集を設定します。

clear voice dsp

1 つ以上のデジタル信号プロセッサ (DSP) 音声チャンネルを「コールドスタート」するには、特権 EXEC モードで **clearvoicedsp** コマンドを使用します。

clear voice dsp {チャンネル | エラー} [[スロット]] [/dsp] [/チャンネル]

チャンネル	特定のチャンネルまたはチャンネルの範囲の DSP コールをクリアします。
エラー	DSP エラー統計をクリアします。
スロット	(オプション) 単一のスロットまたは範囲の最初のスロットを指定します。スロットの範囲を指定するには、この引数の構文に 2 番目のスロットを入力します。2 番目のスロットは、範囲の終了を指定します。範囲内のすべてのスロットがコマンドの影響を受けます。
/dsp	(オプション) スロット上の単一の DSP または範囲内の最初の DSP を指定します。DSP の範囲を指定するには、この引数の構文に 2 番目の DSP を入力します。2 番目の DSP は、範囲の終了を指定します。範囲内のすべての DSP がコマンドの影響を受けます。
/チャンネル	(オプション) DSP の単一のチャンネルまたは範囲内の最初のチャンネルを指定します。チャンネルの範囲を指定するには、この引数の構文に 2 番目のチャンネルを入力します。2 番目のチャンネルは範囲の終了を指定します。範囲内のすべてのチャンネルがコマンドの影響を受けます。

コマンド デフォルト

このコマンドを使用しない場合、アクティブコールは DSP 音声チャンネルで継続されます。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(4)XC	このコマンドが導入されました。
12.4(9)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(9)T に統合されました。

使用上のガイドライン

clearvoicedsp コマンドを使用すると、DSP をコールドスタートできます。このコマンドを実行すると、設定されたファームウェアが指定された DSP または DSP の範囲にダウンロードされます。このコマンドは、DSP の状態に関係なく実行できます。DSP のすべてのアクティブチャンネルが早期に終了します。

例

次の例では、スロット 2、DSP 1 上のすべてのアクティブ コールをクリアします。

```
Router# clear voice dsp 2/1
```

次の例では、スロット 2、DSP 1、チャンネル 1 のアクティブな通話をクリアします。

```
Router# clear voice dsp 2/1/1
```

関連コマンド

コマンド	説明
showvoicedsp	DSP 音声チャンネルの現在のステータスまたは選択した統計を表示します。

clear voice phone-proxy all-sessions

すべての電話プロキシセッションをクリアするには、特権 EXEC モードで **clear voice phone-proxy all-sessions** コマンドを使用します。

clear voice phone-proxy all-sessions

構文の説明	このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。
コマンド モード	特権 EXEC (#)
コマンド履歴	リリー 変更 ス 15.3(3)M このコマンドが導入されました。

例

次の例は、すべての電話プロキシセッションをクリアする方法を示しています。

```
Device# clear voice phone-proxy all-sessions
```

clear voice statistics

ゲートウェイの音声統計収集設定をクリアして統計収集をリセットするには、特権 EXEC モードで **clearvoicestatistics** コマンドを使用します。

{clear音声statistics[CSR[accounting | signaling]] | [IEC]}

構文の説明

CSR	(オプション) すべてのアカウンティングおよびシグナリング統計はクリアされますが、Cisco VoIP 内部エラー コード (IEC) はクリアされません。
accounting	(オプション) アカウンティング統計のみがクリアされます。
シグナリング	(オプション) シグナリング統計のみがクリアされます。
IEC	(オプション) Cisco VoIP IEC のみがクリアされます。

コマンド デフォルト

キーワードが指定されていない場合は、すべてのアカウンティングおよびシグナリング統計、およびすべての IEC がクリアされます。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、すべてのアカウンティングおよびシグナリング統計と、すべての Cisco VoIP IEC をクリアします。

```
Router# clear voice statistics
```

次の例では、すべてのアカウンティングおよびシグナリング統計をクリアします。

```
Router# clear voice statistics csr
```

次の例では、アカウンティング統計のみをクリアします。

```
Router# clear voice statistics csr accounting
```

次の例では、シグナリング統計のみをクリアします。

```
Router# clear voice statistics csr signaling
```

次の例では、Cisco VoIP IEC のみをクリアします。

Router# **clear voice statistics iec**

関連コマンド

コマンド	説明
voicestatisticstypecsr	シグナリングおよび VoIP AAA アカウンティング統計の収集を設定します。

clear voip fpi rtts

Voice over IP (VoIP) 転送プレーン インターフェイス (FPI) ラウンドトリップ時間カウンタをクリアするには、特権 EXEC モードで **clearvoipfpirtts** コマンドを使用します。

clearVoIPfpirtts

構文の説明	このコマンドには引数もキーワードもありません。				
コマンド モード	特権 EXEC (#)				
コマンド履歴	<table border="1"><thead><tr><th>リリース</th><th>変更</th></tr></thead><tbody><tr><td colspan="2">Cisco IOS XE リリース 3.9S このコマンドが導入されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更	Cisco IOS XE リリース 3.9S このコマンドが導入されました。	
リリース	変更				
Cisco IOS XE リリース 3.9S このコマンドが導入されました。					

次の例は、VoIP FPI ラウンドトリップ時間カウンタをクリアする方法を示しています。

```
Router# clear voip fpi rtts
```

clear voip fpi stats

Voice over IP (VoIP) 転送プレーンインターフェイス (FPI) 統計カウンタをクリアするには、特権 EXEC モードで **clearvoipfpistats** コマンドを使用します。

clearVoIPfpistat

構文の説明	このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。	
コマンド履歴	リリース	変更
	Cisco IOS XE リリース 3.9S このコマンドが導入されました。	
	次の例は、VoIP FPI 統計カウンタをクリアする方法を示しています。	
	Router# clear voip fpi stats	

clear voip rtp port

場合によっては、通話が終了した後も、Voice over IP (VoIP) リアルタイム プロトコル (RTP) ポートが割り当てられたままになることがあります。このようなハングしたポートをクリアするには、このコマンドを使用します。

クリアVoIPrtpportテーブル IDポート

構文の説明	テーブル ID	ハングしたポートをクリアするためのテーブル識別子を確認するには、「show voip rtp stats」コマンドを使用します。
	ポート	5500 ～ 65498 の範囲の、カンマで区切られた最大 32 個のポート番号のリスト。
コマンド モード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更
	Cisco IOS XE Bengaluru 17.4.1a このコマンドが導入されます。	

ハングしたポートをクリアしようとする、次の確認メッセージが表示されます。

```
Router#clear voip rtp port 1 8002
Any port(s) associated with an active call will not be cleared.[confirm]
Cleared port 8002
```

アクティブな通話に関連付けられたポートをクリアしようとする、次のエラーが表示されます。

```
Router#clear voip rtp port 2 9020,9022
Any port(s) associated with an active call will not be cleared.[confirm]
The following port(s) are associated with active calls and have not been cleared:
9020 9022
An active call may be cleared using the "clear call voice" command.
```

複数の無効なポート (奇数ポート、範囲外、テーブルから割り当てられていないポート) をクリアしようとする、次のエラーが表示されます。

```
Router#clear voip rtp port 1 9008,9009,9010,9011
Any port(s) associated with an active call will not be cleared.[confirm]
Error: Port(s) 9008 9009 9010 9011 invalid for table 1.
Use 'show voip rtp stats' command to view the ports allocated to each table
```

32 個を超えるポートを指定すると、次のエラーが表示されます。

```
Router# clear voip rtp port 1 8000, 8002, 8004 ,8006 ,8008 , 8010, 8012, 8014, 8016,
8018, 8020, 8022, 8024, 8026, 8028, 8030, 8032, 8034, 8036, 8038, 8040, 8042, 8044, 8046,
8048, 8050, 8052, 8054, 8056, 8058, 8060, 8062, 8064
Any port(s) associated with an active call will not be cleared.[confirm]
Error: A maximum of 32 ports may be cleared.
```



(注) アクティブな通話をクリアする場合は、「clear call voice」コマンドを使用します。

clear voip stream-service connection

CUBE で WebSocket 接続を削除するには、ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **clearvoipstream-serviceconnection id forced** コマンドを使用します。

clear voip stream-service connection id forced

構文の説明

D WebSocket接続に関連付けられた ID。

コマンド デフォルト

このコマンドは有効になっていないため、接続はクリアされません。

コマンド モード

ユーザ EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
Cisco IOS XE ベンガルール 17.6.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、WebSocket ID に関連付けられた WebSocket でクローズ メッセージを送信します。 このコマンドには 2 つのバージョンがあります。

- **clearvoipstream-serviceconnection id** : WebSocket 接続にアクティブな通話がないシナリオのコマンド構成。
- **clearvoipstream-serviceconnection id forced** : WebSocket 接続でアクティブな通話があるシナリオのコマンド構成。



(注) WebSocket 接続にアクティブな通話がある場合、コマンド **clearvoipstream-serviceconnection id** は、接続をクリアできないというエラー メッセージが表示されます。

例

以下は、アクティブな通話がある ID 17 の WebSocket 接続をクリアするためのサンプル出力を示しています。

アクティブな通話があるかどうかを確認するには:

```
router#show voip stream-service connection
ID    Local IP:Port      Remote IP:Port      Active Calls    Total Calls
17    10.65.125.206:22377 10.64.86.215:8066   1               1
```

WebSocket 接続をクリアするには:

```
router#clear voip stream-service connection 17
WARNING: There are active fork sessions on this WebSocket connection.
Use clear voip stream-service connection <id> forced to delete this WebSocket connection.
```

```
router#clear voip stream-service connection 17 forced
1 active fork sessions will be deleted. Continue? [confirm]
```

アクティブな通話がある WebSocket 接続がクリアされたかどうかを確認する方法:

```
router#show voip stream-service conn history
ID  Local IP:Port      Remote IP:Port      Total Calls  Disconnect Cause
6   10.65.125.206:21811 10.64.86.215:8062   0            WS_ACTIVE
8   10.65.125.206:29867 10.64.86.215:8063   1            WS_IDLE_TIMEOUT_CLOSURE
11  10.65.125.206:51108 10.64.86.215:8064   1            WS_IDLE_TIMEOUT_CLOSURE
14  10.65.125.206:29918 10.64.86.215:8065   1            WS_IDLE_TIMEOUT_CLOSURE
17  10.65.125.206:22377 10.64.86.215:8066   1            WS_CLEAR_COMMAND_CLOSURE
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voip stream-service connection	Unified Border Element 内のアクティブな WebSocket 接続に関する情報を表示します。
show voip stream-service connection history	Unified Border Element 内のすべての閉じられた WebSocket 接続に関する情報を表示します。
show voip stream-service server <ip:port>	WebSocket サーバの IP とポートに基づいて、WebSocket 接続に関する情報を表示します。

clear voip stream-service statistics

CUBE 上のグローバル WebSocket 統計をリセットするには、ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **clearvoipstream-servicestatistics** コマンドを使用します。

clear voip stream-service statistics

コマンド デフォルト

このコマンドはデフォルトでは有効になっていないため、統計はクリアされません。

コマンド モード

ユーザ EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
Cisco IOS XE ベンガルール 17.6.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、CUBE ルーターのグローバル WebSocket 統計をクリアします。

例

以下は、**show voip stream-service statistics** の出力例であり、統計情報が **clear voip stream-service statistics** によってクリアされた後のものです。

```
router#clear voip stream-service statistics
router#show voip stream-service statistics
Active connections:          0
Active forked calls:         0
Total connections created:    0
Total forked calls:          0

Connection failures:
HTTP failures:               0
TCP failures:                0
Remote WebSocket closures:   0
Remote TCP closures:         0
Idle age-outs:               0

Message statistics:
WS_CREATE_REQ:               0
WS_CREATE_RSP_OK:            0
WS_CREATE_RSP_FAIL:          0
WS_CLOSE_REQ:                0
WS_CLOSE_RSP:                0
WS_DOWN:                     0
WS_STATS_REQ:                0
WS_STATS_RSP:                0
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voip stream-service statistics	Unified Border Element 内の WebSocket 接続に関する統計情報を表示します。

コマンド	説明
show voip stream-service connection history	Unified Border Element 内のすべての閉じられた WebSocket 接続に関する情報を表示します。
show voip stream-service server <ip:port>	WebSocket サーバの IP とポートに基づいて、WebSocket 接続に関する情報を表示します。

clear vsp statistics

showvsp コマンドの使用時に表示されるすべての音声ストリーミング処理（VSP）統計情報をクリアするには、特権 EXEC モードで **clearvspstatistics** コマンドを使用します。

clearvspstatistics

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(11)T	このコマンドは、Cisco 3640、Cisco 3660、Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 で導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、すべての累積VSP統計を0にリセットします。現在の統計を表示するには、**showvspstatistics** コマンドを使用します。

例

次の例では、VSP セッションの統計をリセットします。

```
Router# clear vsp statistics
```

関連コマンド

コマンド	説明
showvsp	VSPセッションに関する累積情報を表示します。

clear vsp statistics

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。